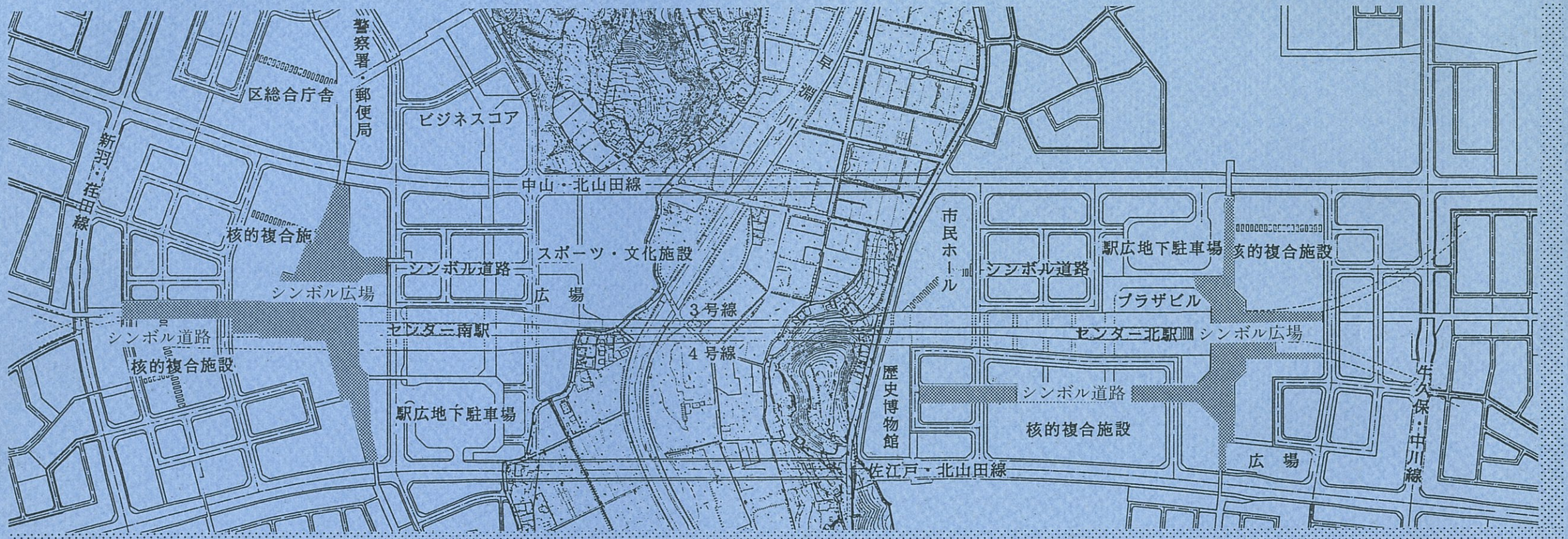
港北ニュータウン

タウンセンターシンボル広場基本計画

港北タウンセンター歩行者専用道路等歩行者空間
基本計画調査－第二地区シンボル広場－業務委託



1992.10

住宅・都市整備公団 港北開発局

株式会社 港北都市開発センター

港北ニュータウン

タウンセンターシンボル広場基本計画

（1）本作業の位置付け

タウンセンターは横浜における新山の手の中心として、ニュータウンの核として、開発の基本方針にしたがって本格的な整備段階に入っている。

道路、地下鉄、行政・文化施設、供給処理施設など公共整備と共に、民間宅地への諸施設誘導や大規模商業施設誘致等々、下層設備系施設整備から表層建築系施設整備へセンター空間形成が次第に具体化しつつある。

しかし、このような街並の立ち上がりの過程を事業としてコントロールしてゆくことは、種々の困難を抱えている。

第一は、「街開き」「一部供用開始」に伴う予定と民間投資に期待する街並形成のテンポのくいちがいというスケジュール調整上の問題である。

第二は、土地利用計画と街並形成ガイドラインの手法によって「秩序」と「多様性」という空間デザインの調和をはかってゆくための具体的方法の問題である。

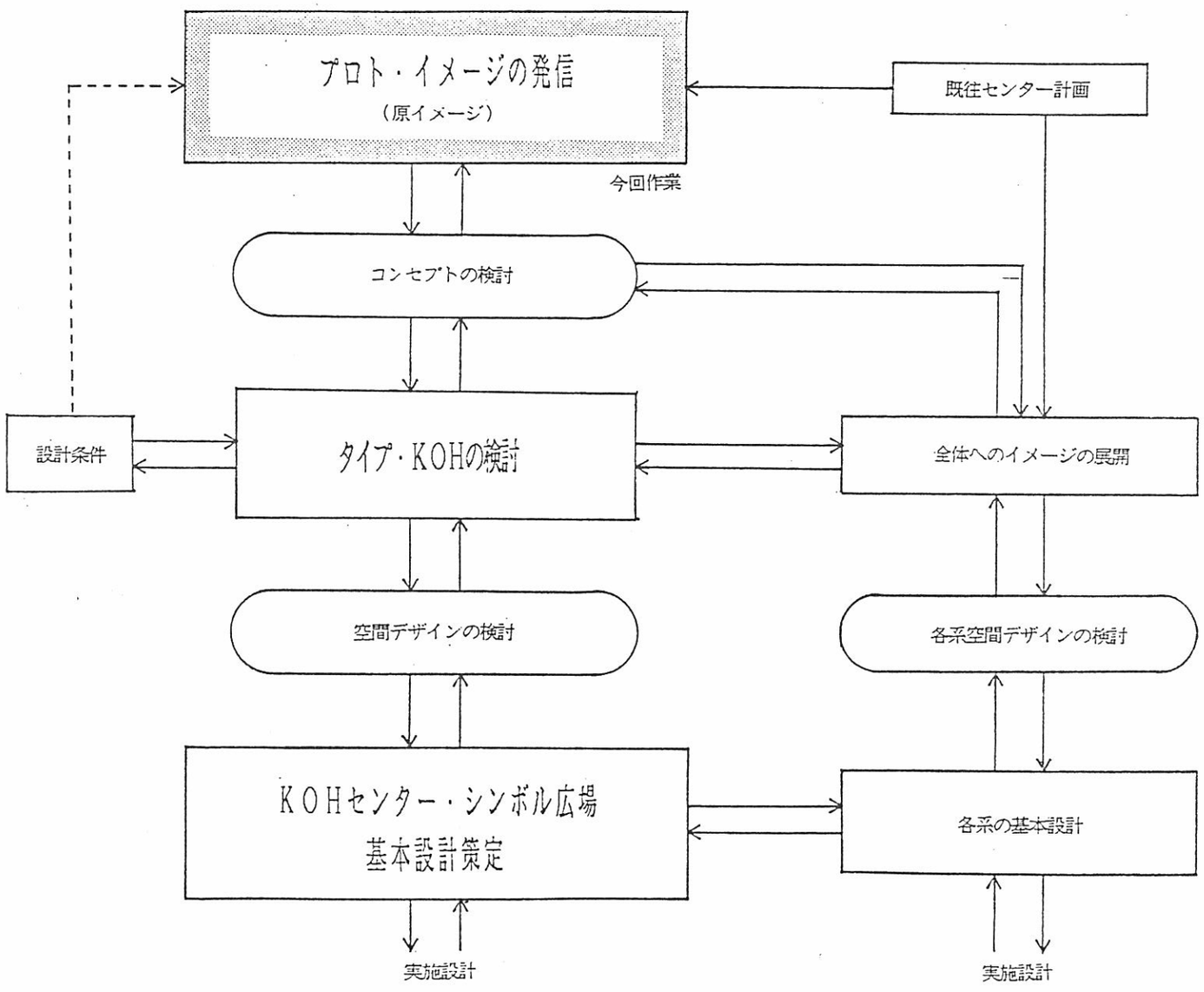
タウンセンターとしての街の質や街区の性格を計画として示しつつ、街の風格を醸成してゆくという将来を示唆した街づくりへの参加の理解を求めてゆくことが必要である。このようなケースでは都市広場、駅前広場、シンボルロード、歩行者専用道路など、センターオープンスペースが、このような街づくりの空間デザインをリードしてゆく上で重要な役割を担うことになろう。

拠点とネットワークというセンターオープンスペースの空間区分の中で、シンボル広場のもつ意味は特に重要であるが、本基本計画では、二つの地区の立地上、施設計画上のセンターの特性をふまえた対称的なコンセプトを下敷きに、街づくりのイメージリーダーとして、シンボル広場のプロトイメージを発信する。

目　次

Ⅰ．計画コンセプト	0－1~6
Ⅱ．デザインコンセプト	
第一地区	1－1~5
第二地区	2－1~6
Ⅲ．シンボル広場基本計画	
第一地区	1－6~12
第二地区	2－7~13

（2）作業のフローチャート



〈港北ＮＴシンボル広場のめざすもの〉

「広場」という言葉のみが先行しがちな我国において、広場のあり方を検討することは、広場に「何が可能か」を問うことにほぼ等しいといえる。

港北ＮＴの「シンボル広場」の検討は、道あるいは広場といった、都市空間に再び活気を取り戻し、都市を「都市」たらしめていた都市本来の魅力を如何にしたら創り出せるのかという問題についての検討にほかならない。またこれは、今日の都市空間における「中間的領域」の復活という問題にも触れざるをえない。

その背景として、我国の都市状況における「基盤」と「上物」、公共インフラと民地との領域の純化による、都市の魅力を創り出していた様々なアクティビティーの排除、切り捨てによる魅力の喪失という問題が指摘される。

その反省として、例えば「歩行者天国」に見られるように、単に歩行者に空間を開放して、歩けるというだけではなく、そこで憩い、集い、ショッピングをし、様々なストリートパフォーマンスを観、またそのようなサービスを提供する側にとっては働く場ともなる、等々の多様な「都市空間の中での生活」の復活が模索されつつある。

このように、都市にとって、そうした様々なアクティビティーが可能な都市空間は不可欠なものであり、それを欠いては「ニュータウン」はいつまでも「都市」にはなれないといっても過言ではない。

したがって、港北ＮＴの「シンボル広場」によって、港北のニュータウンライフ（ＮＴ居住者に限らず来街者を含めて）を如何に豊かなものにできるか、という視点が不可欠なのである。

「シンボル広場」検討のテーマの一つは、この「都市における多様なアクティビティーを可能にする中間的領域の復活」ということである。もう一つのテーマは都市における「象徴性」の復活ということである。

イギリスの作家、Ｇ．Ｋ．チェスタートンは、「奇商クラブ」（１９０５）という作品の中で、前世紀末のロンドン郊外を描写してこう述べている。「何よりも、ここには幅の広い道路や大きな辻、市電の線路、病院といった文明のまぎれもないしるしが揃っている。しかし、この次に見えてくるものはなんであるか、この近辺では予想がつかないといえるにせよ、絶対に見られないものが一つある。真に偉大で中心的なもの、第一級のもの、人類が讃美しきったもの、それがここには欠けているのである。」（福田恒存訳）

このような評価は、今日の我国のニュータウンにもそのままあてはまるだろう。

都市には、一ケ所に多数の人々が集って住み、また社会活動を営むために、ある種の求心性の象徴が求められる。こうした象徴性はかっては、宗教施設や行政施設、歴史的記念碑等が担ってきた。しかし、こうした象徴性は近代合理主義の中で「過剰」として排除されてきた。

日常性を超えた、高度の象徴性を担わされたものたちは、その都市に関わる人分のアイデンティティーを表す「共有財産」として意識され、市民の誇りとなってきた。

住宅地の日常性をいくら積み重ねても「都市」にはならない、「過剰」とみなされた部分にこそ、生活を豊かにし、都市を「都市」たらしめるカギがひそんでいるということに気付かなければならない。

1．計画コンセプト

1－1．タウンセンターの街づくり

（1）港北ニュータウン・街づくりの基本方針

① 緑の環境を最大限に保存する街づくり
② “ふるさと”を偲ばせる街づくり
③ 安全な街づくり
④ 高い水準のサービスが得られる街づくり

（2）タウンセンター開発理念

① 多機能複合に基づく広域拠点の形成
② 生活・文化の情報発進拠点の形成
③ 高度の都心性と自然性を備えたセンターの形成
④ 個性豊かで自己主張を持つセンターの形成

（3）公共空間の基本的な考え方

① 歩行者が主役となる空間とする。
- 歩行者や自転車利用者にとって障害のない優しい空間づくりを行なう。

② シンボル広場を中心とした歩行者区間のネットワーク構成を行なう。
- タウンセンター内の全ての歩行者空間を束ねる、タウンセンターの中心空間としてシンボル広場をしつえる。

③ 水、緑、光をモチーフにし、自然を感じることの出来る空間演出を行なう。
- 21世紀の都市空間として、自然環境や自然の生態と共存する空間づくりをめざす。
- 自然（人工的に持ち込まれ、演出されるもの）と、人工（幾何学的に秩序化された空間）の対比を創り出す。

④ 高低差の演出と共に、高低差が苦にならない施設づくりを行なう。
- 高低差のある場所では、単に昇降機能を持たせるだけでなく、眺望やビスタ、見下ろしや見上げの楽しめる空間づくりを行なう。

⑤ 立体利用により空間の高度利用を図る。
- 高低差を利用した積極的な立体利用により、公共空間の高度利用を図る。

（4）シンボル広場の基本コンセプト

① タウンセンターのみならず、横浜の新しいシンボルともなる広場。
- タウンセンターのシンボルとしては勿論のこと、ニュータウンのシンボル、新区のシンボル、横浜の新しいシンボル空間としても機能する広場となるよう計画する。

② 多様な屋外活動・イベントの場として、人々が自由に交流する広場。
- 空間の大きな拡がりを活かして、ハレの日の祭り・イベント・パレードなど多目的に使える空間構成とする。

③ 周辺諸施設と有機的に結びついた、活力に溢れた広場。
- 駅や核的複合施設等シンボル広場周辺の各種施設の賑わい・活動を有機的に結び付け、広場と施設が相乗的にその賑わいを増幅させることの出来るシンボル広場づくりを行なう。

④ 自然と人間の関係性を表現する広場。
- 水、緑、光など自然の要素により構成されたシンボル広場を創り出す。
- 自然と人間の関係性の現在の状況への批判、未来における状況に対する展望等を、シンボル広場の構成やデザインへ展開させる。

〈シンボル広場のコンセプト〉

自然と人間の関係性を象徴する広場

２１世紀を目前に控えて、戦争、飢餓、不況等々多難な問題をかかえる人類が直面する最大の問題が「自然環境問題」であるといえるだろう。これまでの、日常生活における何気ない利便性の追求が、大きな環境破壊をもたらしたという認識が、急速に広まりつつあり、日常的実践の中で、広く自然との対応というレベルにまで戻って、この問題にどう取り組んでゆくかが、それぞれの個人に問われる時代になったといえる。

自然は、人間にとって時には他者として「知」の探求の対象となり、また時には自然に共感する「情」を育む源となった。

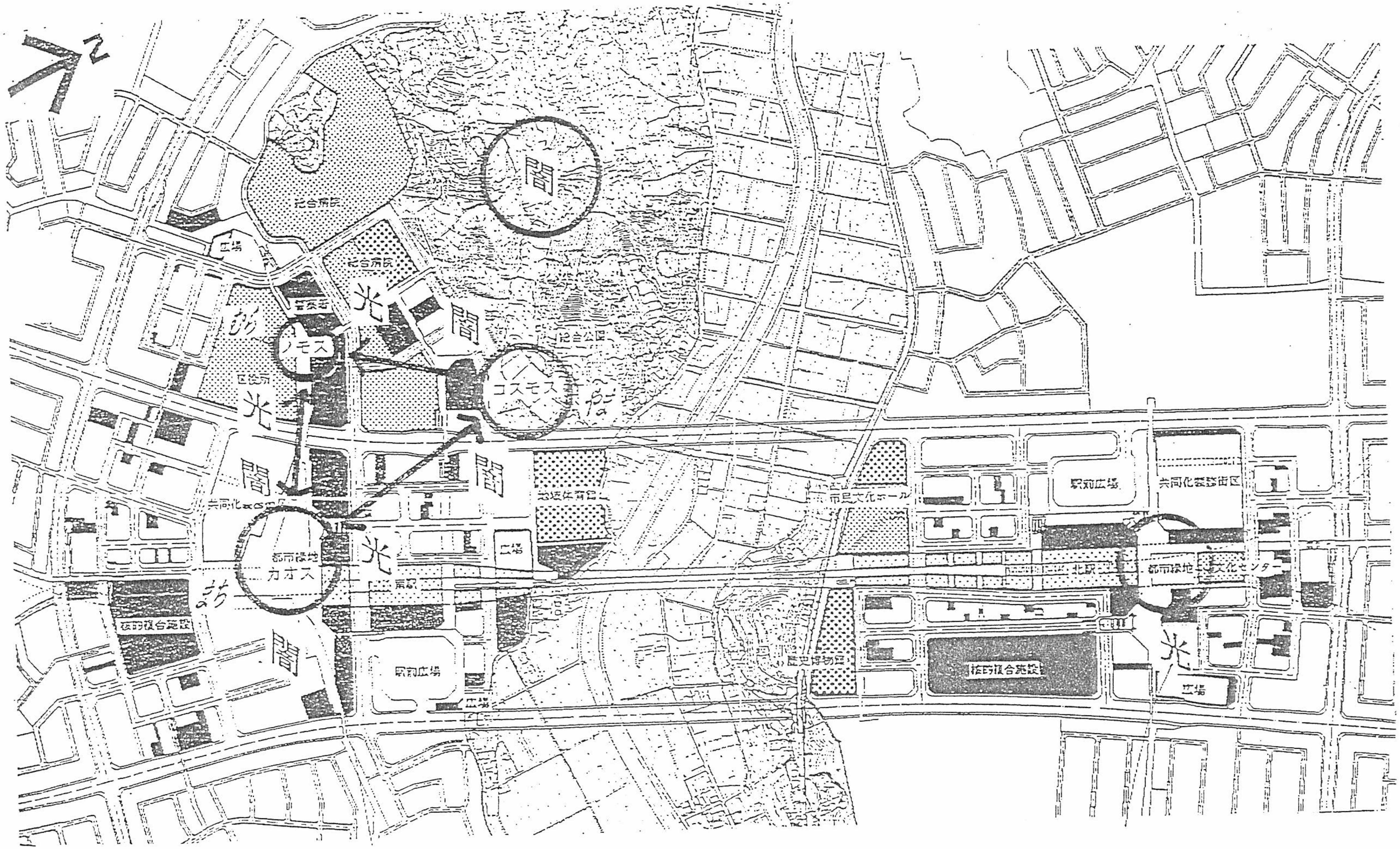
人間の営の中でも、都市開発は農業と共に直接的にこの環境問題に触れる行為であり、当然個々の都市開発の中でこの問題に、如何に対処してゆくかが問われているのである。

「グリーンマトリックス・システム」により、都市開発における自然環境問題への対応の先進性を唱ってきた、港北ＮＴのシンボルゾーンのテーマとして、まさにこの「自然との関係性」というテーマこそ最もふさわしいテーマといえるだろう。

都市開発という狭い範囲にとらわれず、「自然との関係性」という問題を広く港北に暮し、また訪れる人々が意識し、また自らに問いかけるきっかけとなるものを、この「シンボル広場」が発信できるならば、都市がシンボルをもつという意味に、現代的意義を付け加えることになるだろう。

（5）第1地区、第2地区の特性

	第 1 地区	第 2 地区
○地区イメージ	●丸の内　●新宿西口　●山の手 ●スペシャル（選りすぐった） ●南斜面の造成　文化施設多い。	●新宿　●新宿東口　●下町　●都会性　●躍動 ●ジェネラル（誰でも） ●北斜面の造成
○施設構成	●歴史博物館、市民ホール、文化センター等、文化・芸術関連施設が多い。	●区総合庁舎、ビジネスコア等、業務系施設を中心に多様な機能が集積する。
○広場の形	●スクエア　・全体像がわかり易い広場の形態。　・シンメトリック ・駅への動線が明確（3本）　・軸線が明確。	●カオス　・全体の形状が摑み難い広場の形態。　・不整形 ・駅への多様なルートがある。　多様な軸線が交錯する。
○広場周辺建物	●カオス　・比較的小規模宅地が多く、様々なスケールの建物が並ぶ。	●スクエア　・比較的大きい宅地が多く同じような規模の建物が並ぶため、建物イメージのまとまりが形成し易い。
○DTイメージ	●南斜面　代官山	●北斜面、高低差大→穴ぐら　新大久保
○当初MP	●森の広場	●集いの広場
●広場テーマ	“知”の広場　抽象の表現	“情”の広場　具象の表現
●共通テーマ	●自然と人間の関係性を各テーマ毎に表現する。	
●広場イメージ	●スタティック。静。秩序 ←→ ●リズム　●軸線 ←→ ●オーセンティック。　●重厚性 ←→ ●西洋的シンボル性。 ←→ ●盛り場でない　●パレード ←→	●ダイナミック。動。カオス。無秩序。 ●ノイズ。　●焦点、アイストップ。 ●アバンギャルド。　●浮遊感。 ●アジア的混沌。　カトマンズ、モンスーン気候、ザナドゥ ●盛り場、マーケット、市　●芝居、サーカス 盛り場、マーケット、市　●芝居、サーカス
●各テーマ	●自然と人間の関係について、将来のあるべき姿・方向性を表現する。 ●都市空間における、将来の自然と人間の関係をシンボライズして表現する。	●自然と人間の関係の状況、問題を具象化し表現する。 ●混沌としたカオス的状況、地球環境の状況をシンボライズする。
●計画方針	●シンメトリックな形状、文化的地区イメージを基に、端正で秩序ある広場の形成をめざす。	●不整形な形状、大衆的な地区イメージを基に、ダイナミックで躍動感に溢れた広場の形状をめざす。
●ﾓﾆｭﾒﾝﾄ等のｲﾒｰｼﾞ	●自然のエレメントを分解、再生成して組み立てられる知的創造物。 ●古来の素材　●自然原理の表現	●自然のエレメントの情念的創造物。 ●新素材　●即物的形態
●舗装イメージ	●自然石舗装中心。　●グレー系を中心とした色彩。	●れんが舗装中心。　●茶系を中心とした色彩。



闇
総合病院
広場
警察署
光
闇
総合公園
ノモス
区役所
コスモス
光
闇
闇
都市緑地
カオス
光
南駅
広場
総合体育館
市民文化ホール
駅前広場
北駅
都市緑地
文化センター
核的複合施設
駅前広場
広場
歴史博物館
核的複合施設
光
広場

第1地区シンボル広場　基本コンセプト

（1）メインテーマ

“知の広場” ……自然と人間の共生の広場

- 人間と都市を取り巻く自然環境との新しい関係性、エコロジーをテーマに広場を創造する。
- 21世紀に向けた、環境に対してやさしい都市空間づくりの“知”（新技術、情報、提案等）を発信する。
- 自然の要素の特性や特徴について検証し、シンボル広場のデザインに採り入れる。

（2）サブテーマ

● エコ・システム（環境共生システム）

- 生活活動や都市活動によって発生する環境への負荷や自然生態系の改変を出来るだけ小さくし、自然の仕組みをうまく活かした上での人間活動と環境との共生を考えた都市づくりをめざす。

○エネルギーの自立性の向上（クリーン・エネルギーへの転換）

①．太陽電池発電システムの導入
- 電力会社線とネットワークした大規模発電システムを、広場のシンボル事業として導入する。

②．風力・水力エネルギーの活動
- ＳＦ等の微弱な電力使用施設の電力供給には、風力・水力等による発電装置を導入する。

○水系保全・水都市循環システム

①．水循環保全システム
- 雨水浸透性の向上や蒸発散の促進、水路ネットワーク等、水のミニ循環システムを構築する。

②．都市水循環システム
- 広場の水施設やトイレ用水用として雨水の再利用を行う。又排水処理による中水道システムの導入も検討する。

⇔

● エコ・リレーション（環境関係性）

- 人間と都市を取り巻く環境と、それを構成する秩序や原理に対しての人間の関わり方を広場計画の中で提案していく。

○都市における自然と人間の関係性の向上

①．自然の原理・法則の表現
- 人間と都市の関係性の原理・法則を、広場の配置法則等に取り入れる。

②．都市における自然環境の融合
- 都市の中心広場としての都心性と自然環境の新たな融合関係を創り出す。

○地域特性・地域個性の表現

①．港北地区の特性の表現
- 港北の地域特性（地形、植生、生物、気象など）や横浜の地域特性をシンボル広場計画の中で表現していく。
- 特に港北丘陵地の原風景である谷戸景観をコラージュする。

⇔

● エコ・デザイン

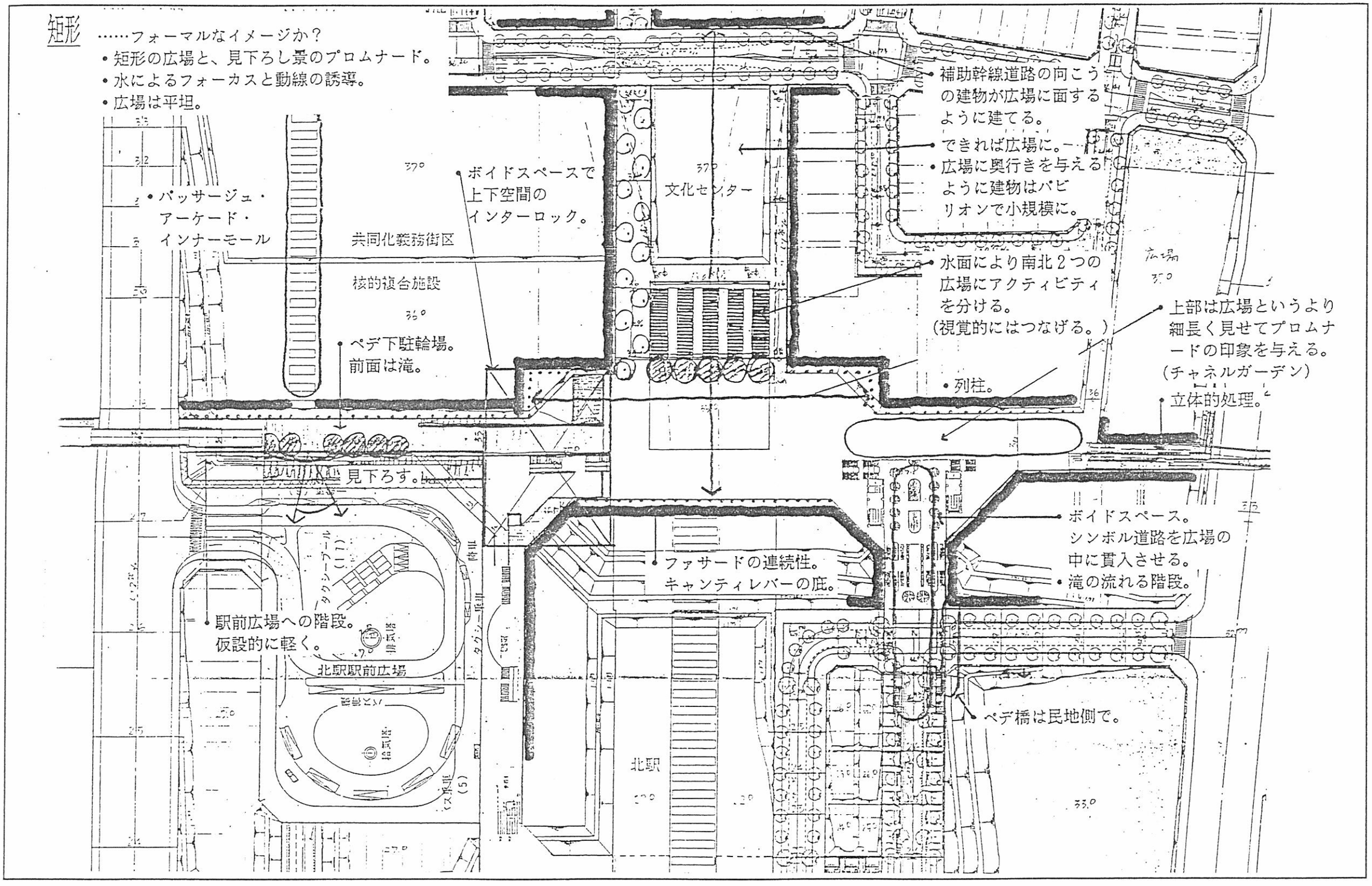
- エコ・システム、エコ・リレーションを実現する要素のデザインは、自然の構成エレメントの合成によって創造する。

○ 自然の7元素への分解・再生成

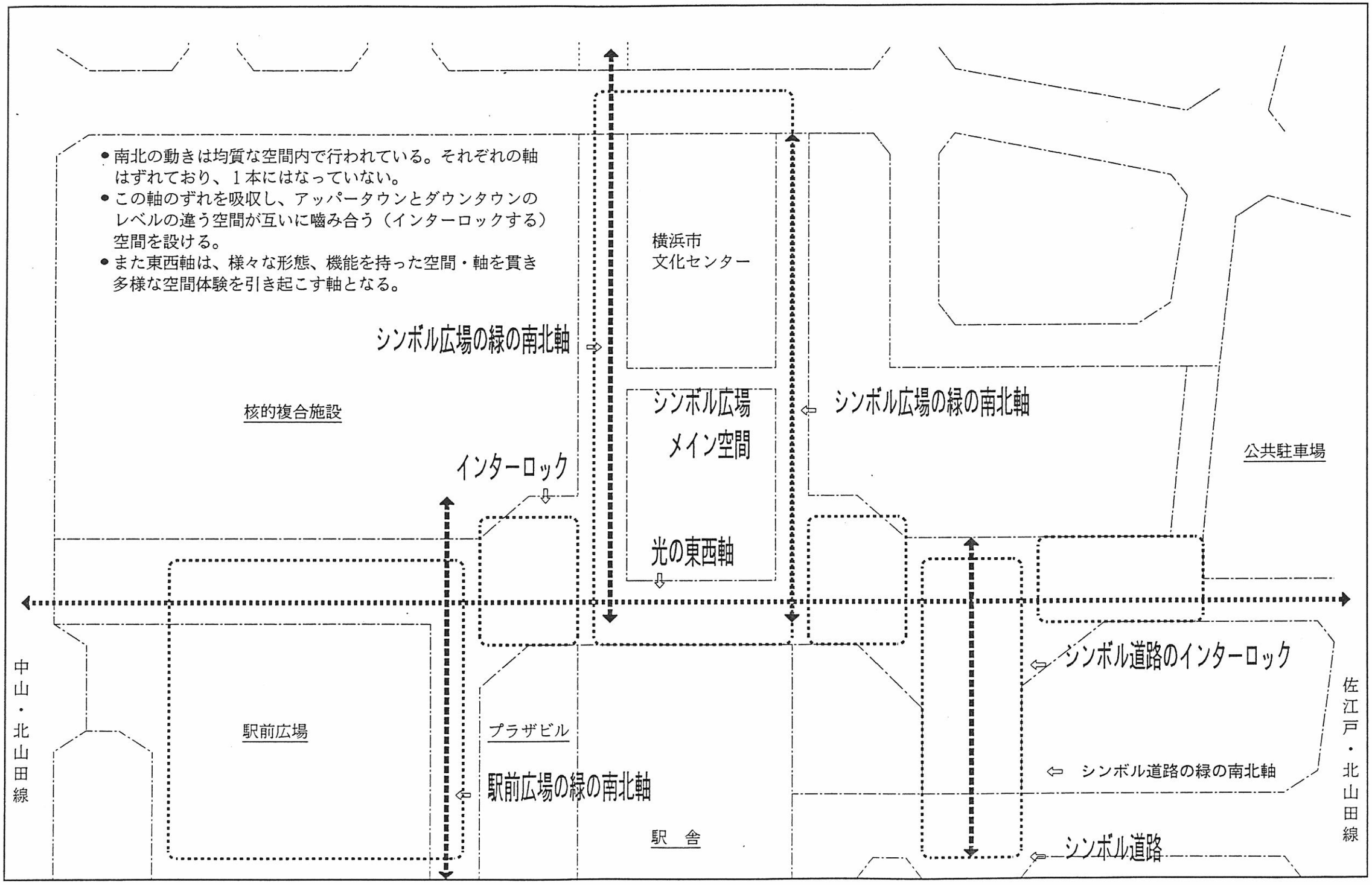
①．自然のエレメントの抽出
- シンボル広場に配置される装置・構造物等の環境を構成する要素を、光、風、火、水、緑、金、土の７つのエレメントに分解する。

②．自然のエレメントの合成による構造物の創造
- 創造される構造物は、それぞれがテーマやストーリーを持ち、自然のエレメントをそれぞれの構造物にテーマに合わせて再合成する。
- 風、水の流れ、音、光など様々な情報を人間の五感に感じる情報として増幅、変換、合成して発進する。

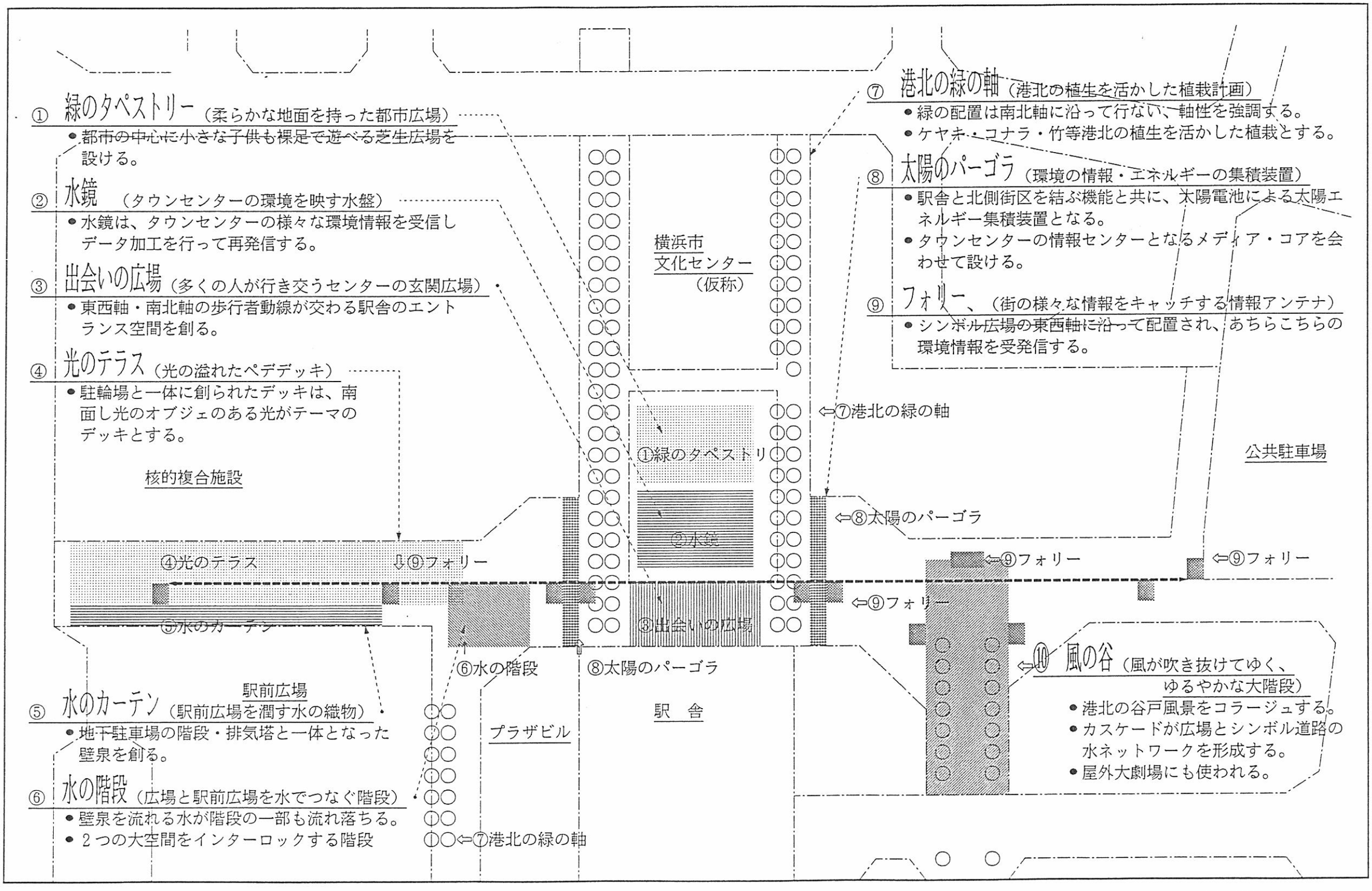
第1地区シンボル広場　空間構成の考え方－1



第1地区シンボル広場　空間構成の考え方－2

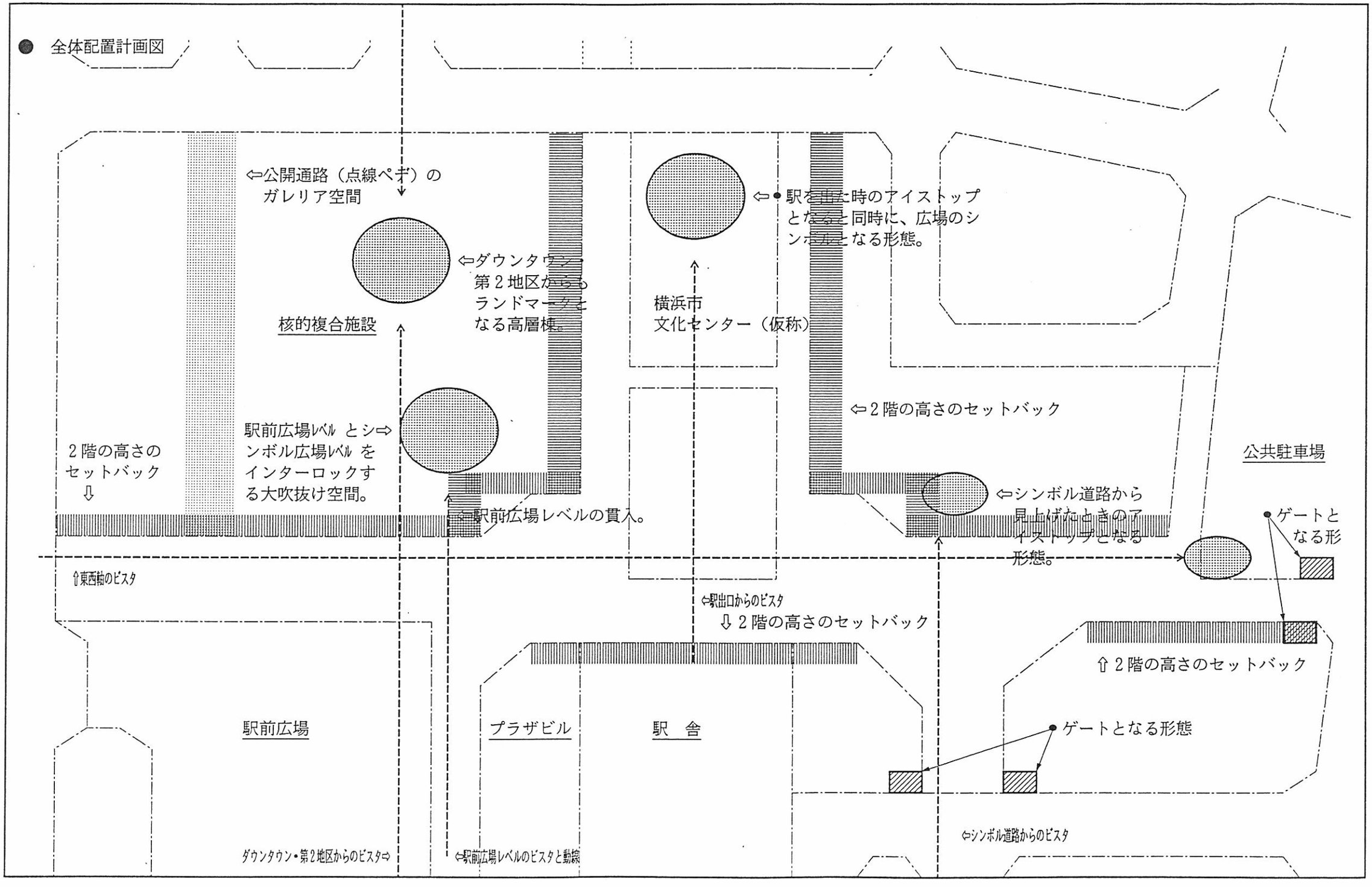


第１地区シンボル広場　コンセプトの展開



第１地区シンボル広場　周辺建物条件図

● 全体配置計画図



2－1　2地区シンボル広場のプロト・イメージ　〈超級広場21〉

「超級広場21」は、港北ニュータウン第二地区駅前広場の計画である。古来、「駅」は海路の「港」と共に、交易の拠点であり、人、物、文化情報の交差点であった。外来の人、文物、情報のあふれる「駅－市」は、それ故に「外」の力の影響の強い場であり、しばしば未知の力の支配する「アナーキー」な場であった。

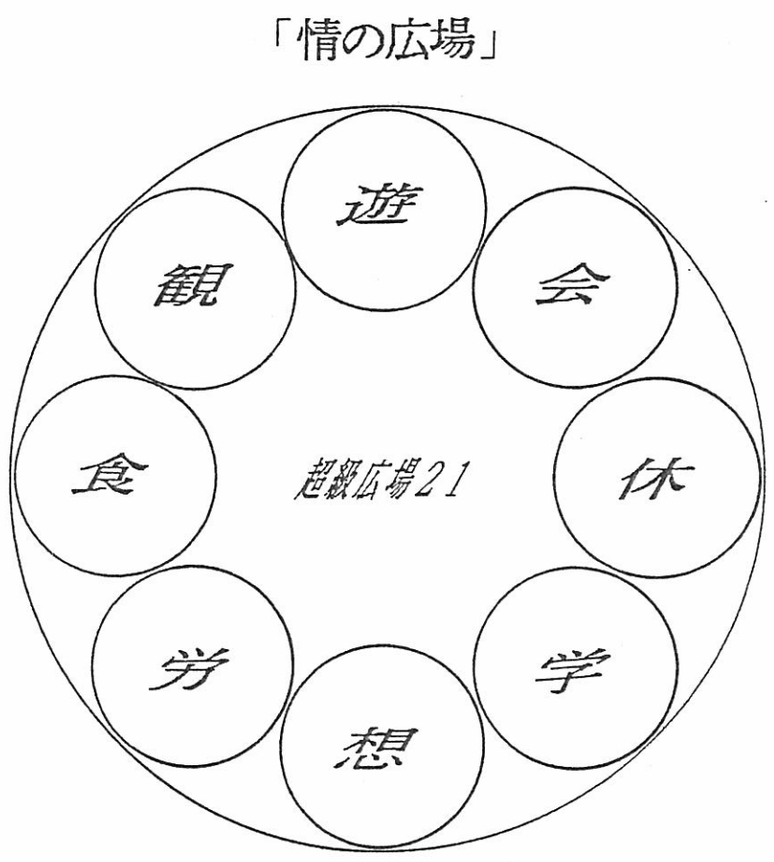
都市を「光」と「闇」とに分けるならば、「駅－市」は「闇」の領域に属する空間であり、単一的秩序の支配から自由な、この「カオス」の支配する場はそれ故に、都市を都市たらしめる魅力を発信する中心となった。

人々の集まるところには、また「カミ」も集まる。未知の力の支配する「闇」の領域はそもそも「カミ」の領域である。「駅－市」は様々な「カミ」の宿るところでもある。集まる人々の様々な不安や、欲望や夢に答える「カミ」たちが様々な姿に化身して現われる。時には芸術として、時には機械システムとして、また時には「カミ」そのものとして。

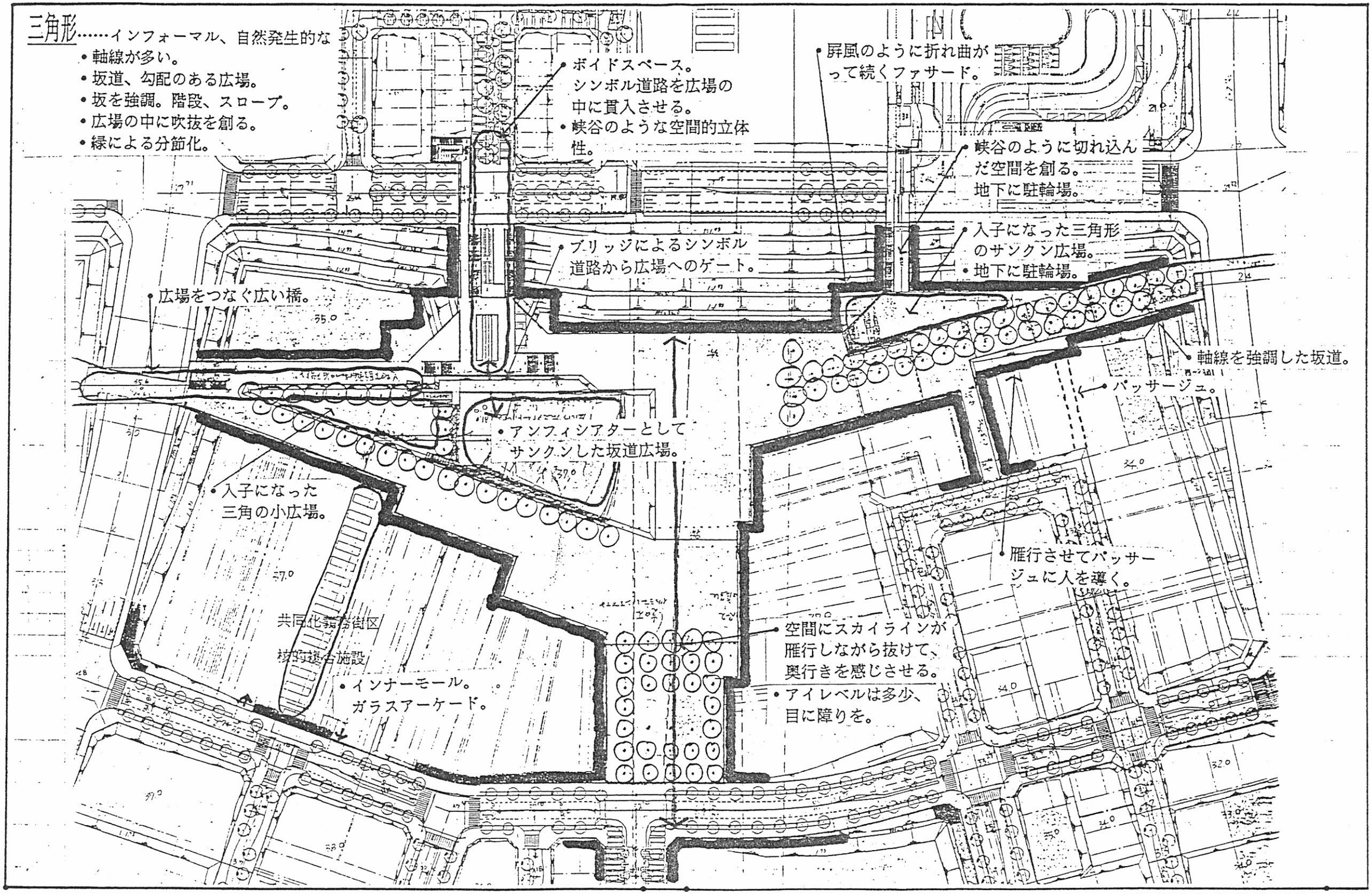
「超級広場21」の「カミガミ」は、「自然回帰」と「ハイテク化」という、20世紀末的な「カミ」達であり、広場は超合理的存在としてのそれら「カミ」達の様々なシンボルによって囲まれている。

この広場は、ニュータウンを単なる巨大団地以上のものとするための装置であり、平均化され管理化され、窒息してゆく都市への異議申し立てである。空間的にはモダンデザインが失ってしまった強い磁場を持った場の復活を目指すものである。そして、「聖」と「俗」とが併存し、「カミ」と「キカイ」が共存する「アジア的カオス」への都市デザイン面における意図的な接近なのである。

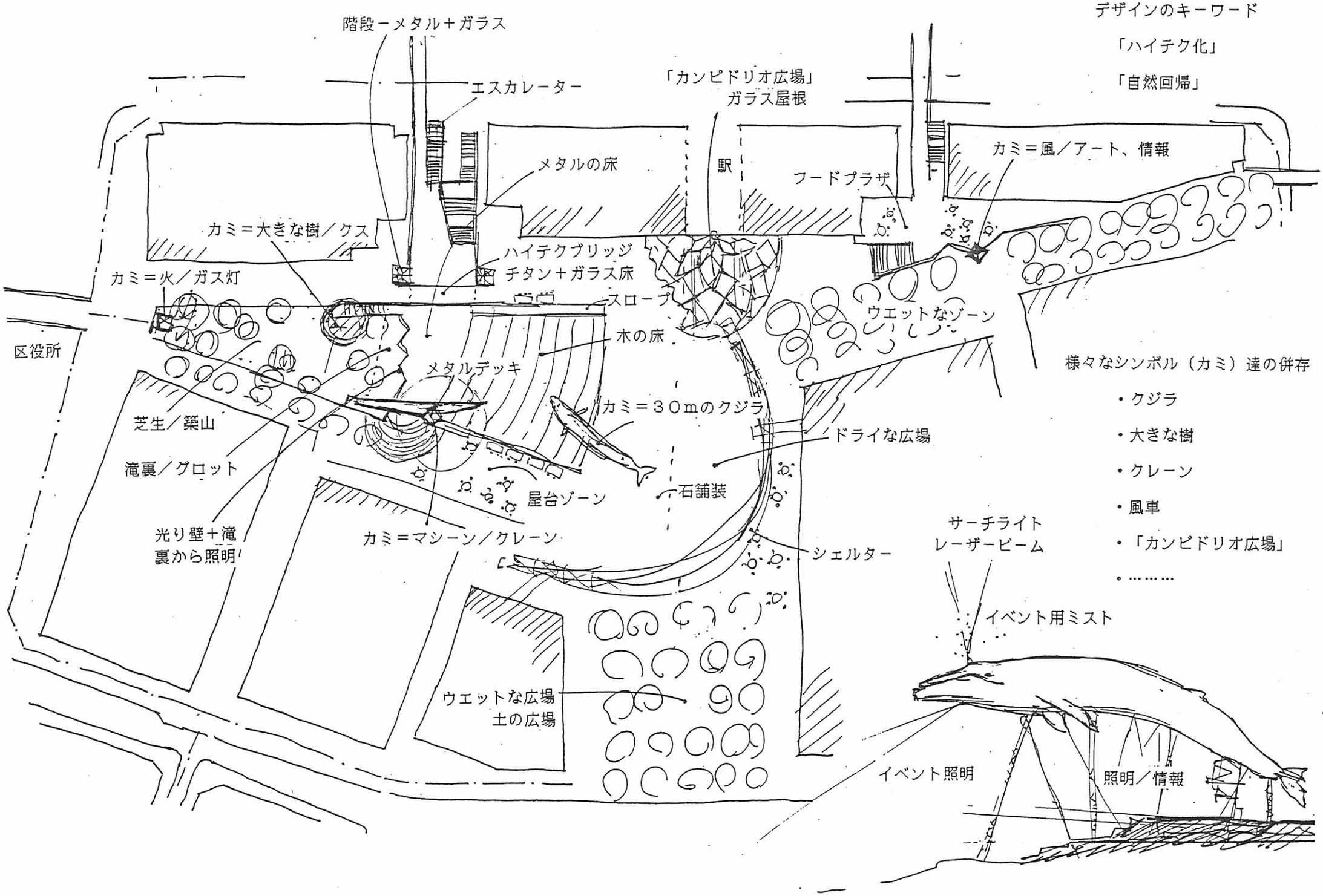
2－2　2地区シンボル広場のコンセプト



2－3　2地区　シンボル広場



2－4　2地区シンボル広場のプロト・イメージ



〈シンボル広場のイメージ〉

デザインのキーワード

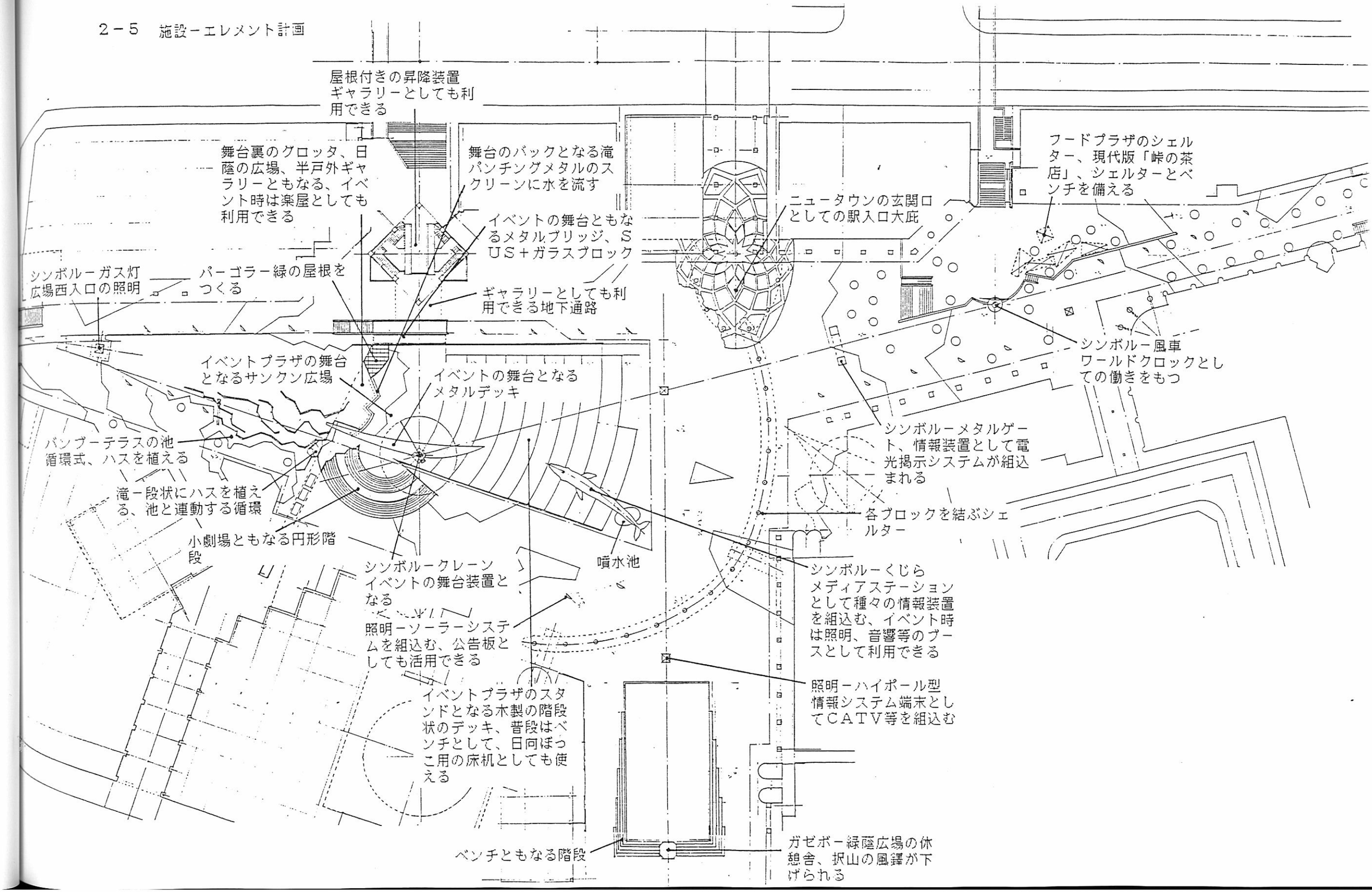
「ハイテク化」

「自然回帰」

様々なシンボル（カミ）達の併存

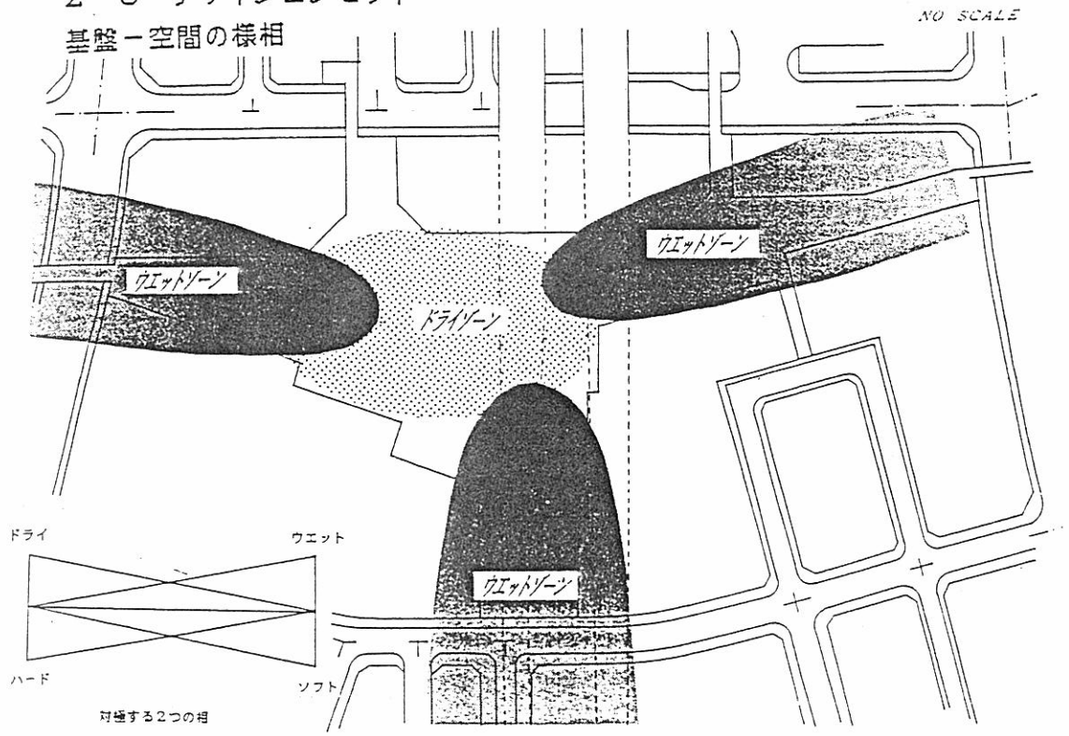
- クジラ
- 大きな樹
- クレーン
- 風車
- 「カンピドリオ広場」
- ……

2－5　施設ーエレメント計画



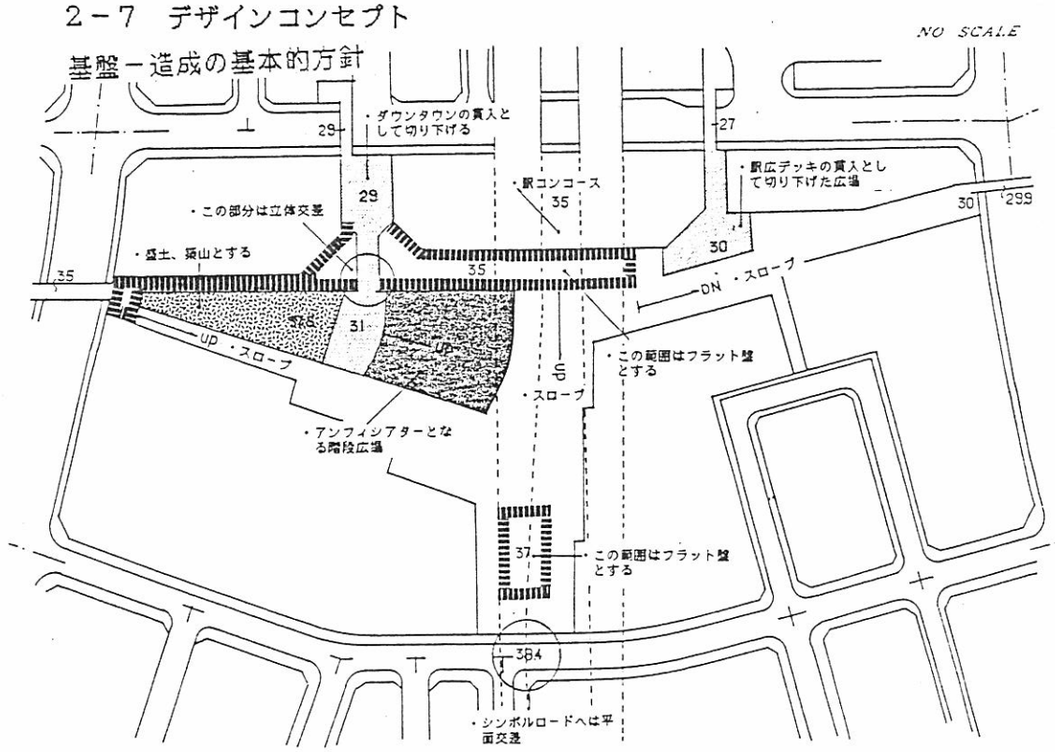
2－6　デザインコンセプト

基盤－空間の様相



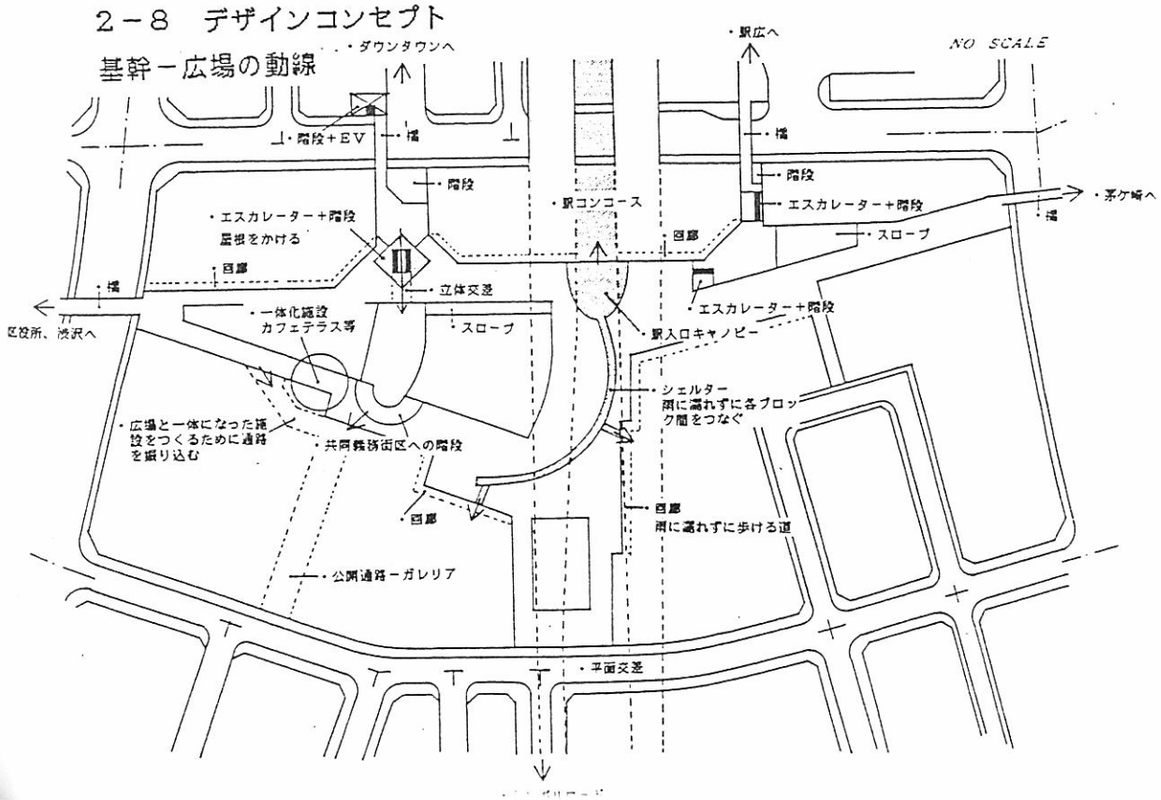
2－7　デザインコンセプト

基盤－造成の基本的方針



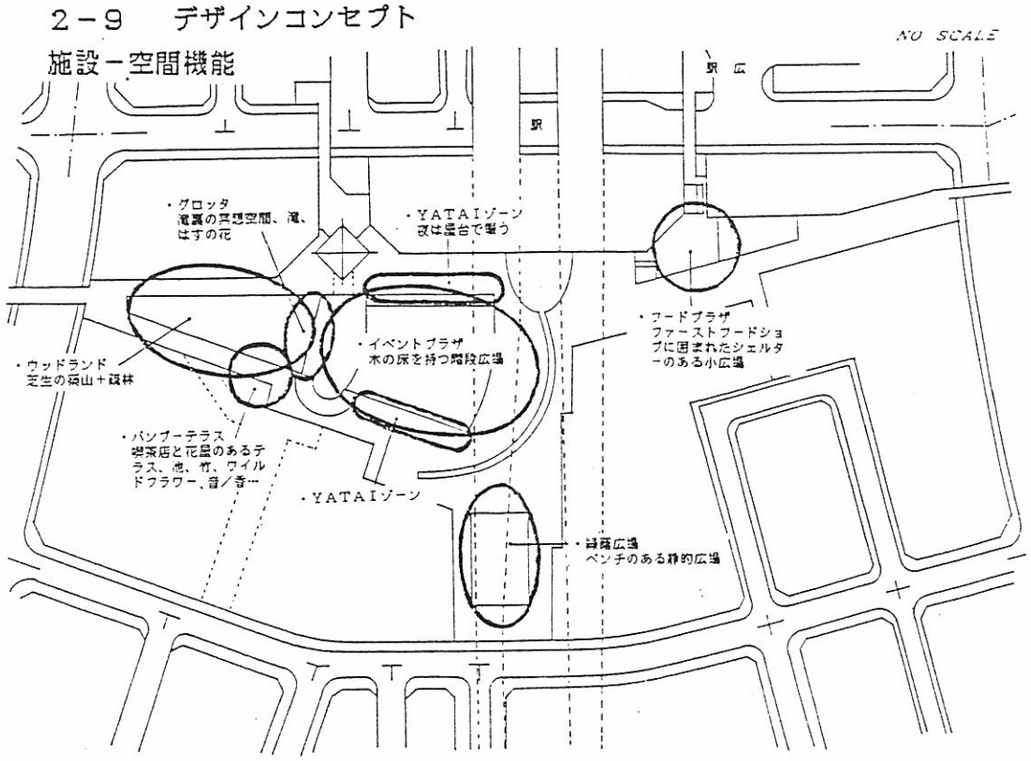
2－8　デザインコンセプト

基幹－広場の動線



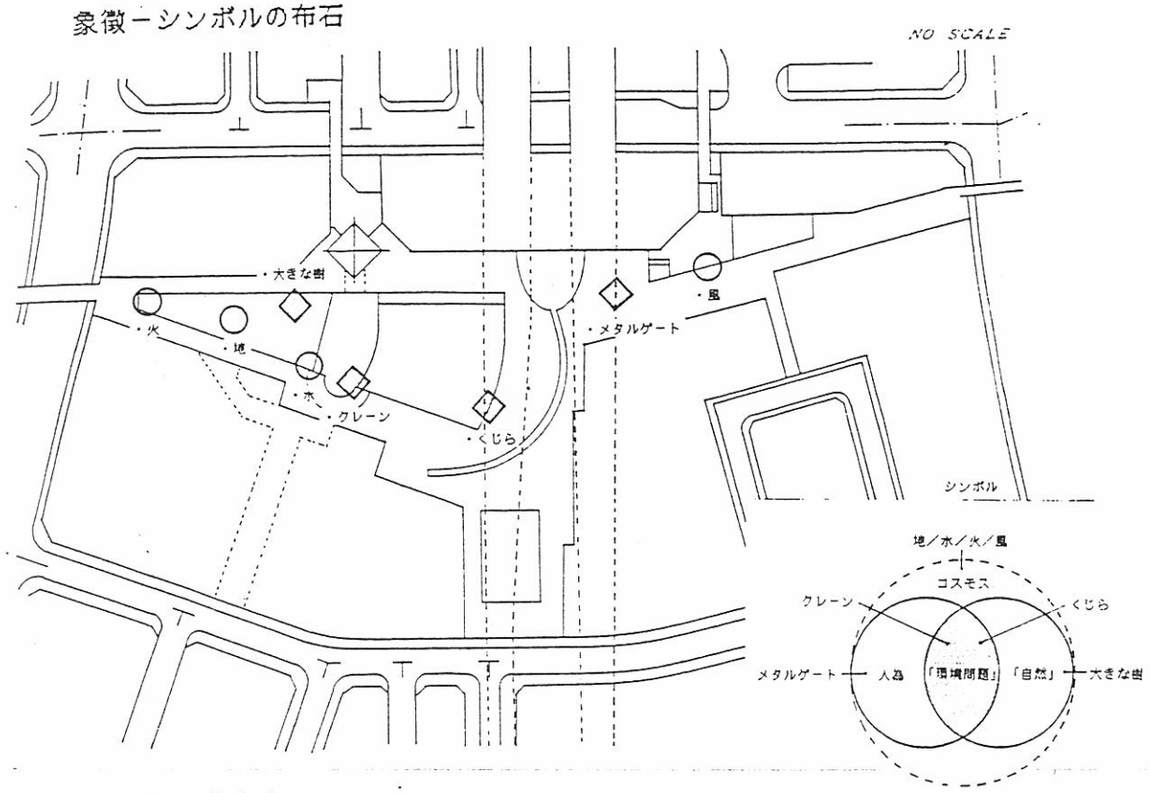
2－9　デザインコンセプト

施設－空間機能



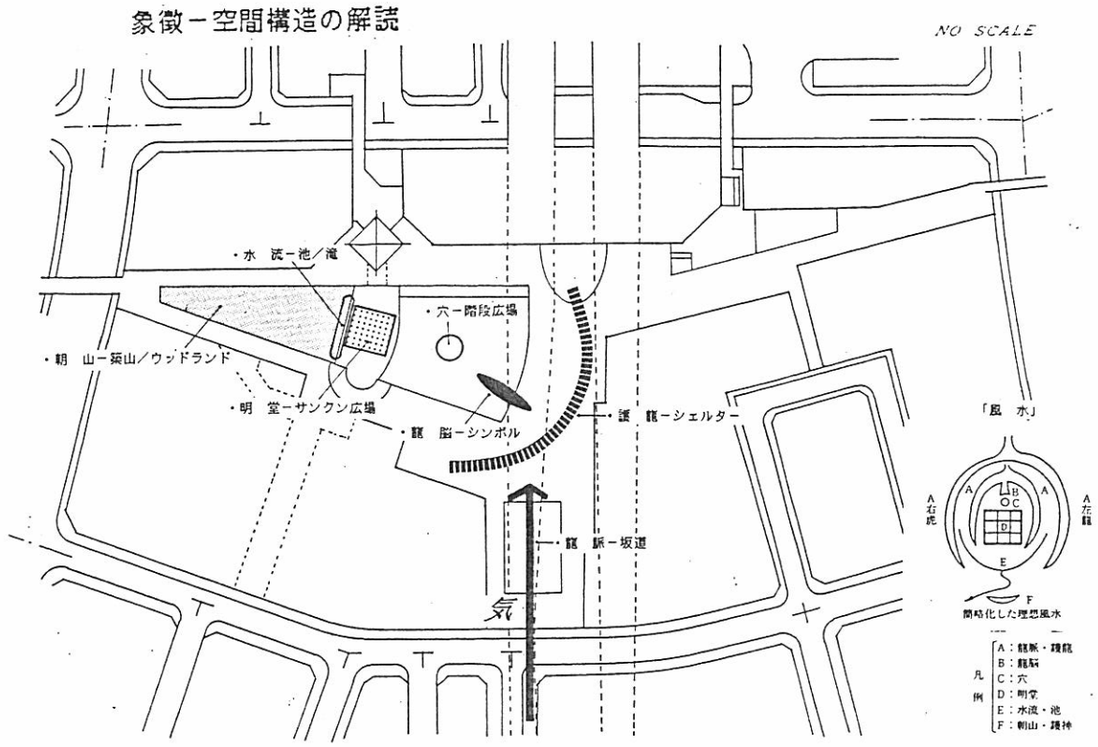
2－10 デザインコンセプト

象徴－シンボルの布石



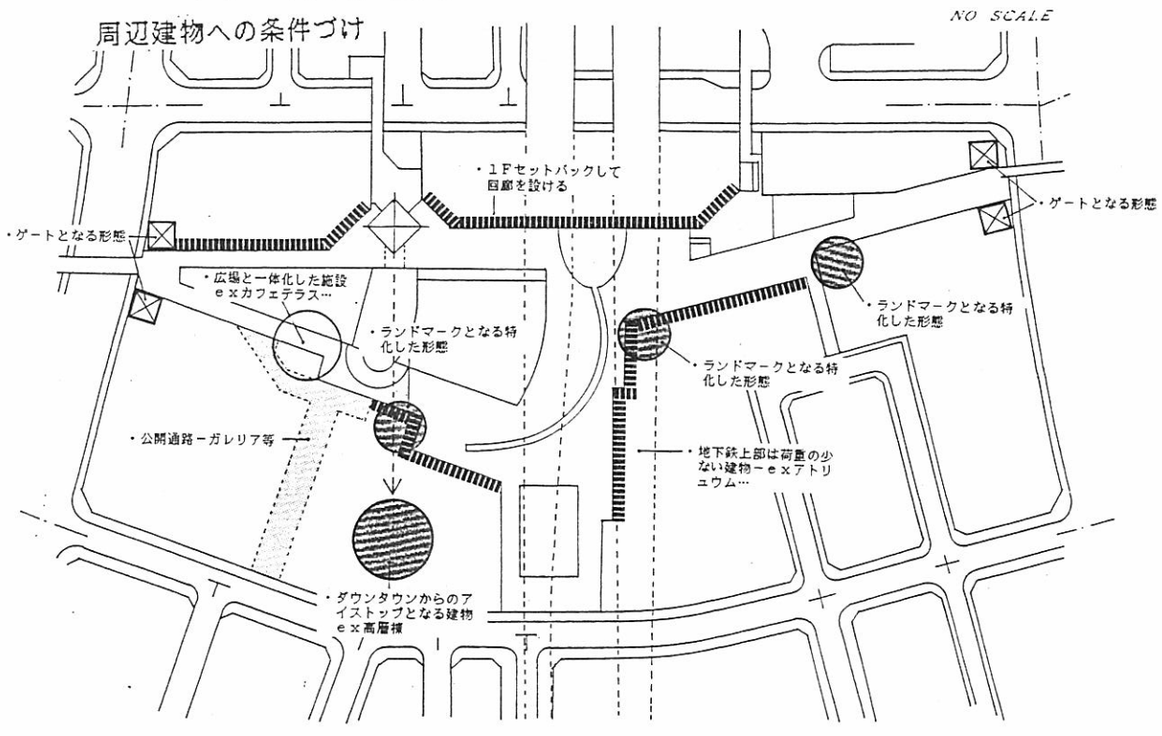
2－11 デザインコンセプト

象徴－空間構造の解読

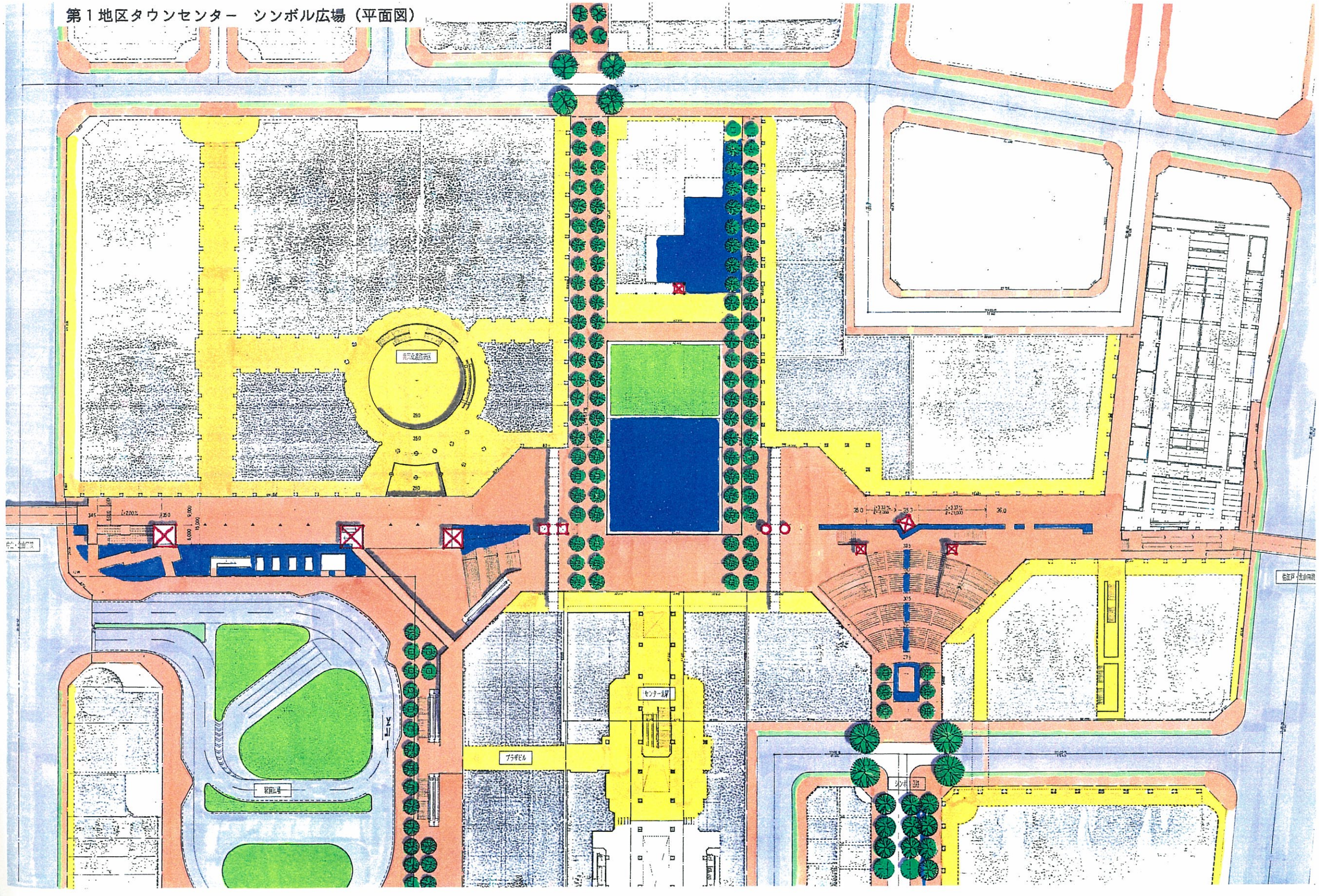


2－12 デザインコンセプト

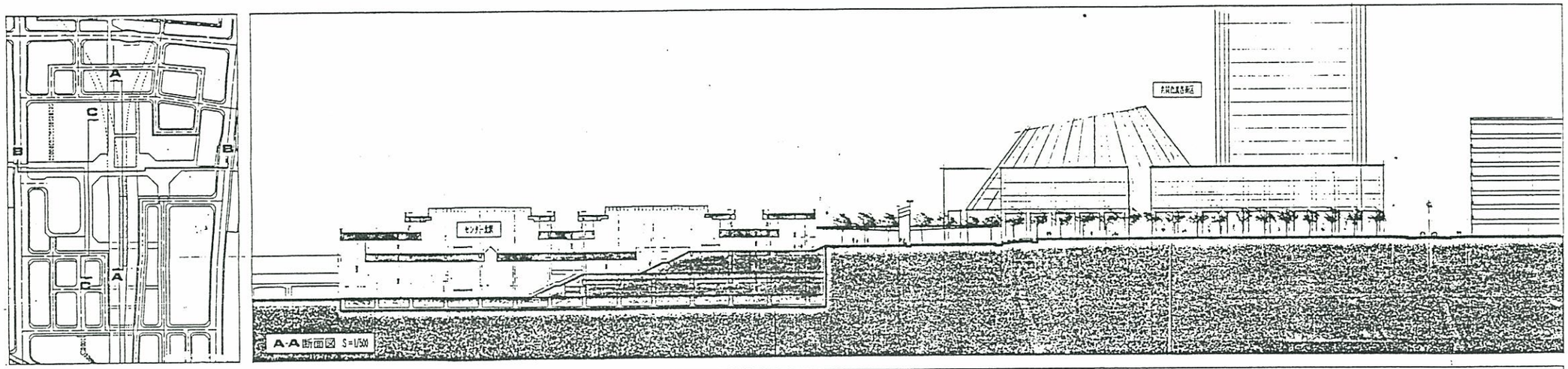
周辺建物への条件づけ

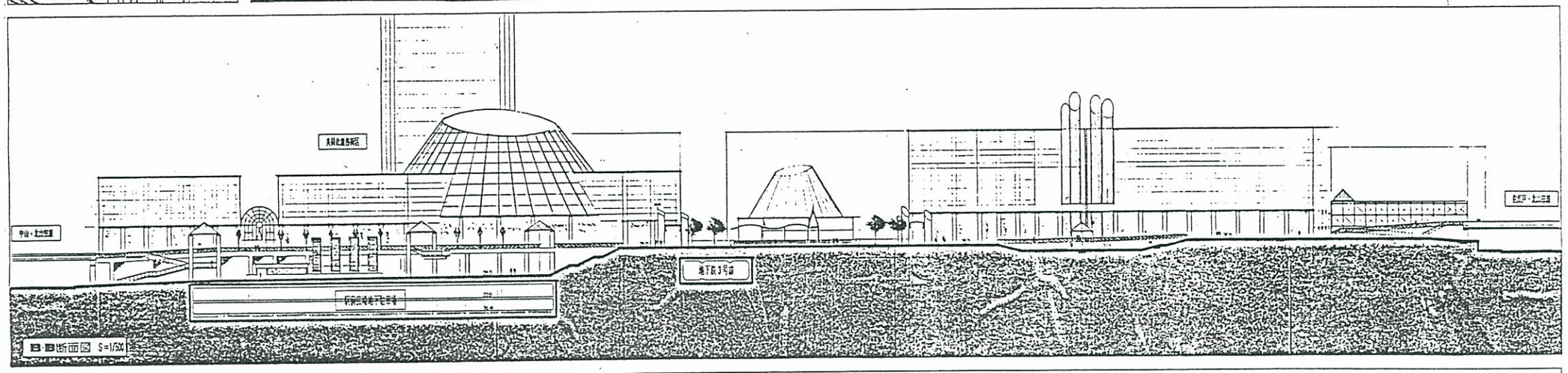


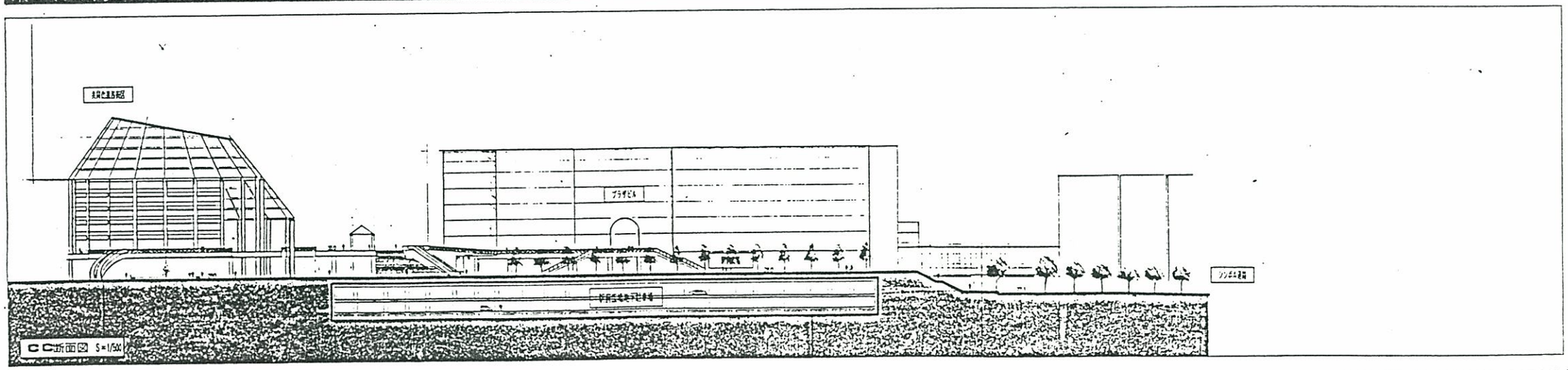
第１地区タウンセンター　シンボル広場（平面図）



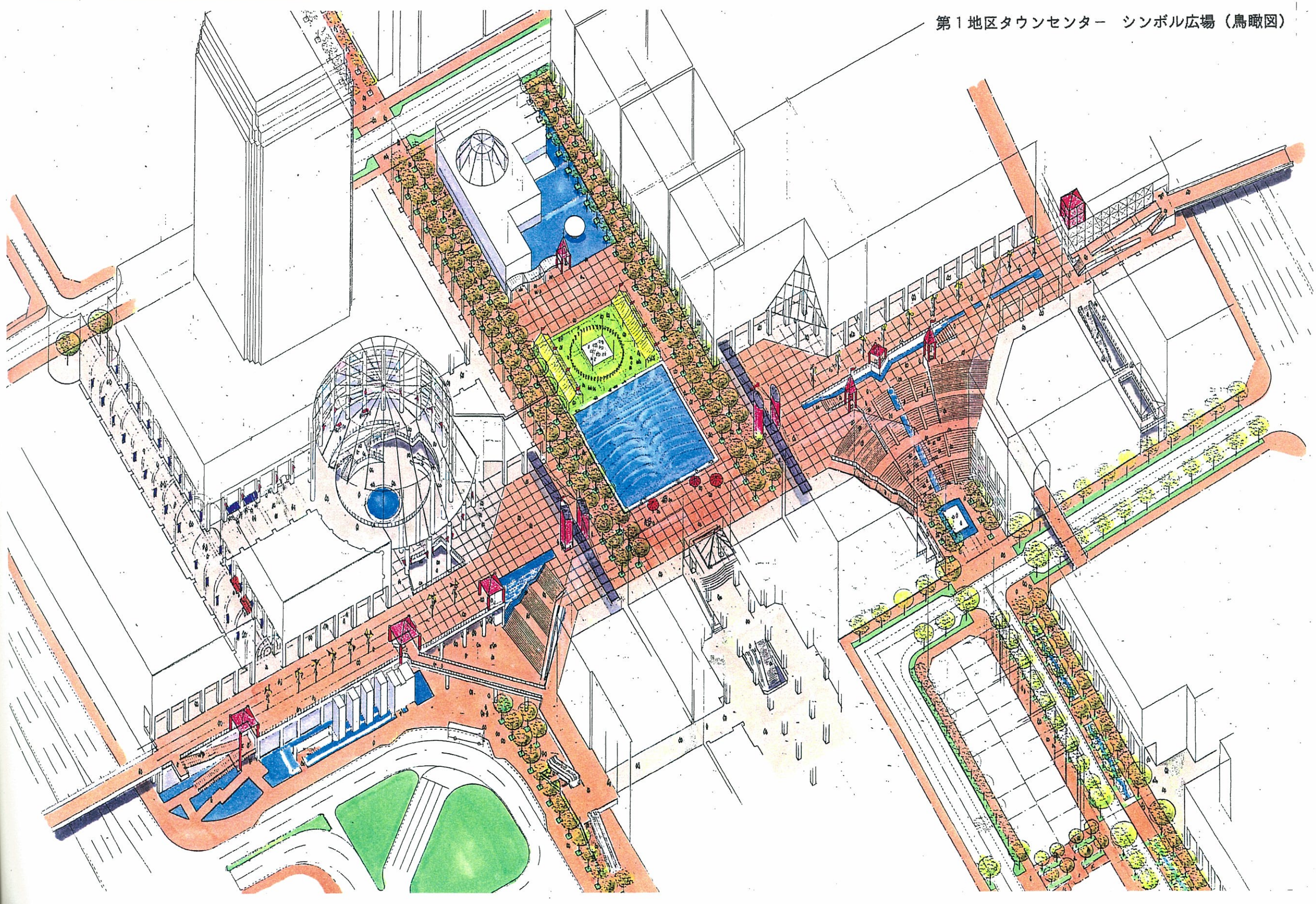
第１地区シンボル広場　計画断面図



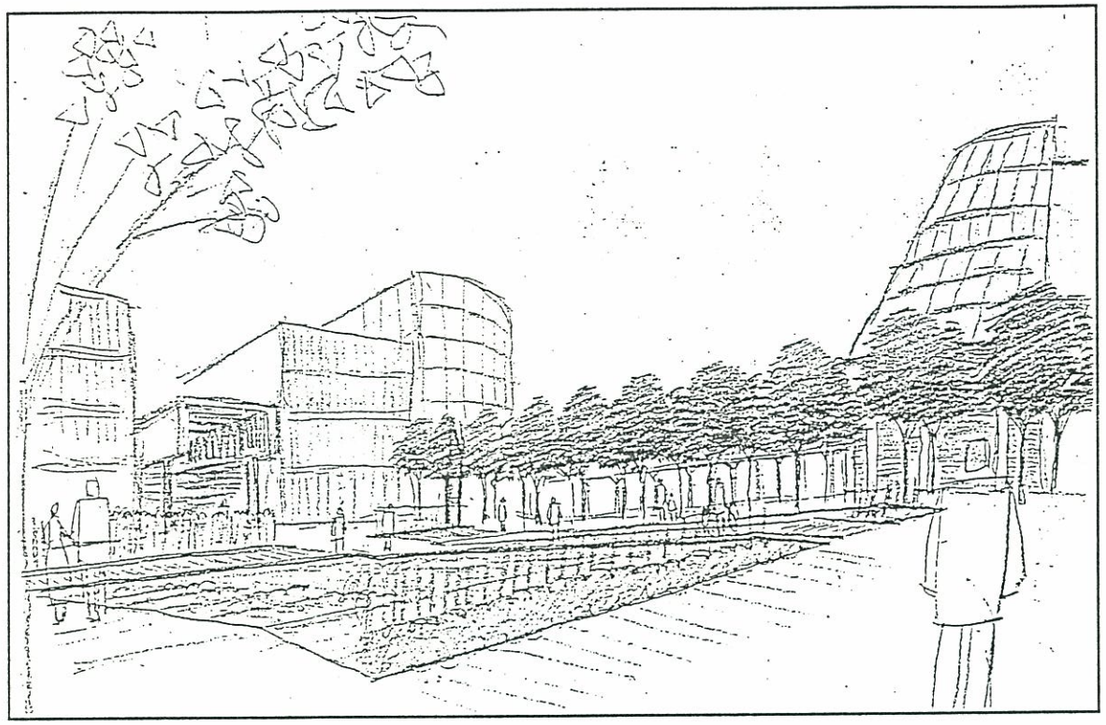


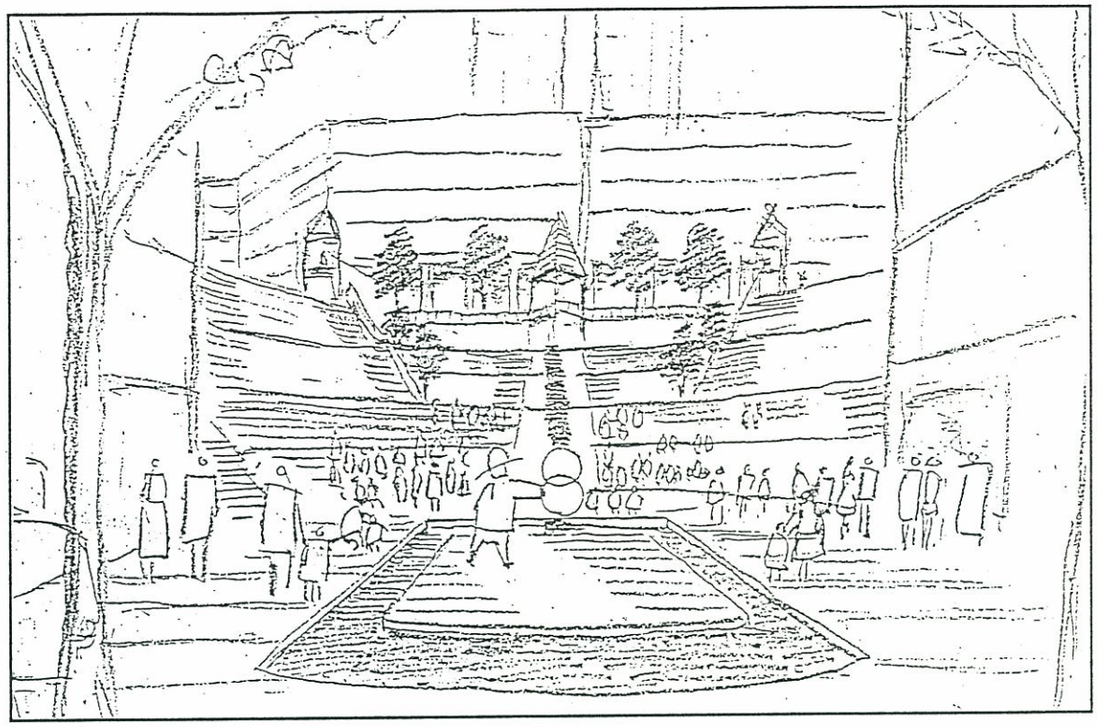


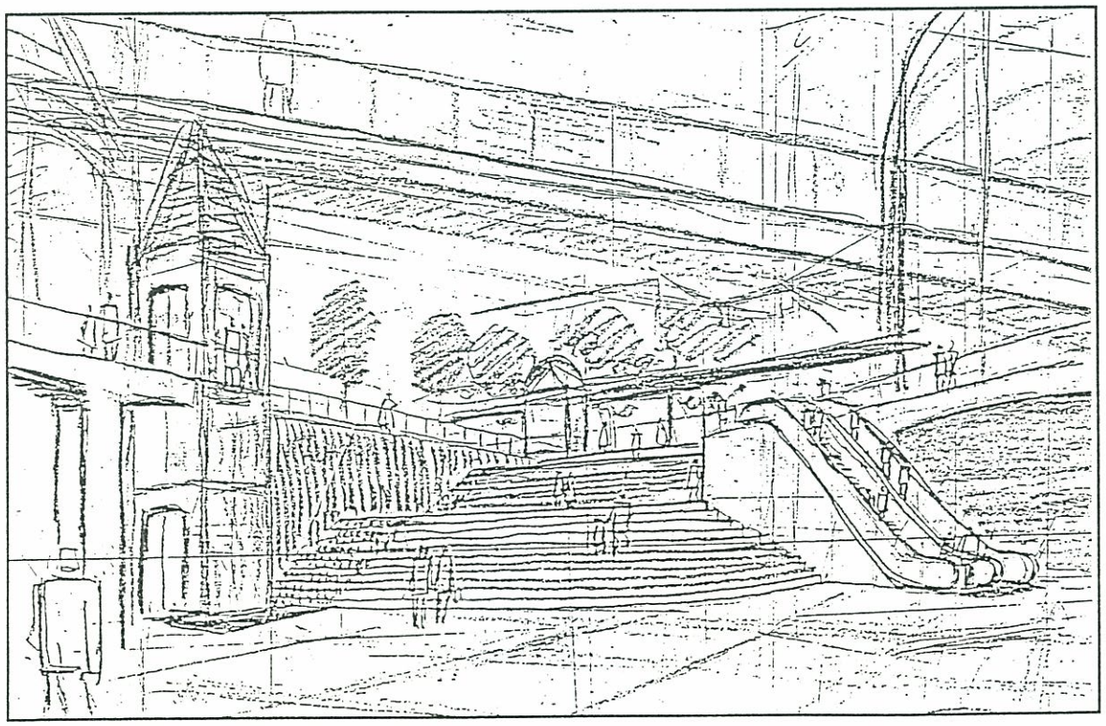
第１地区タウンセンター　シンボル広場（鳥瞰図）

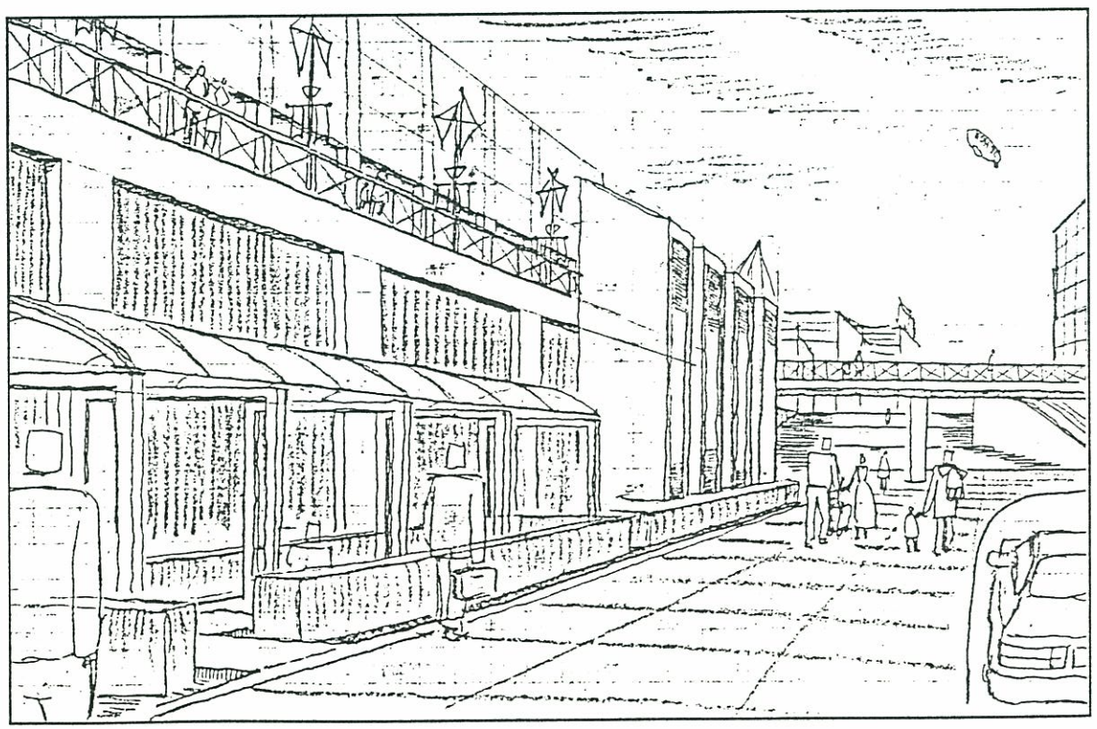


第１地区シンボル広場　イメージ・スケッチ

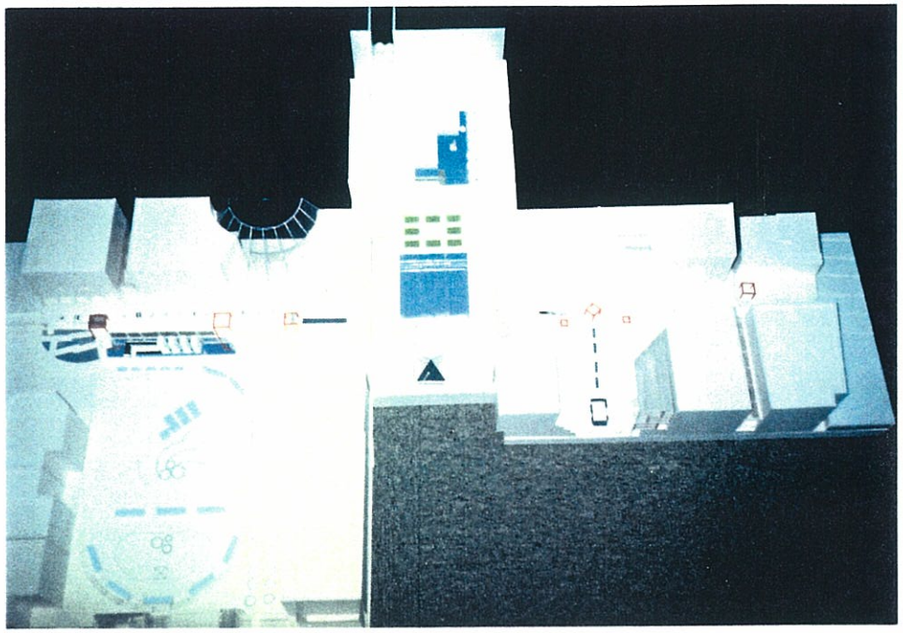


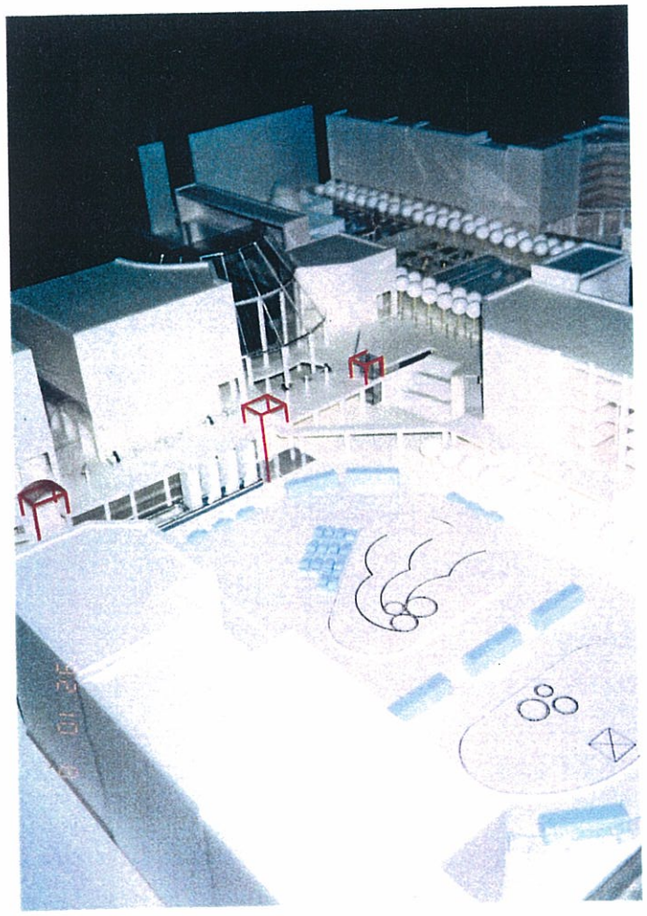


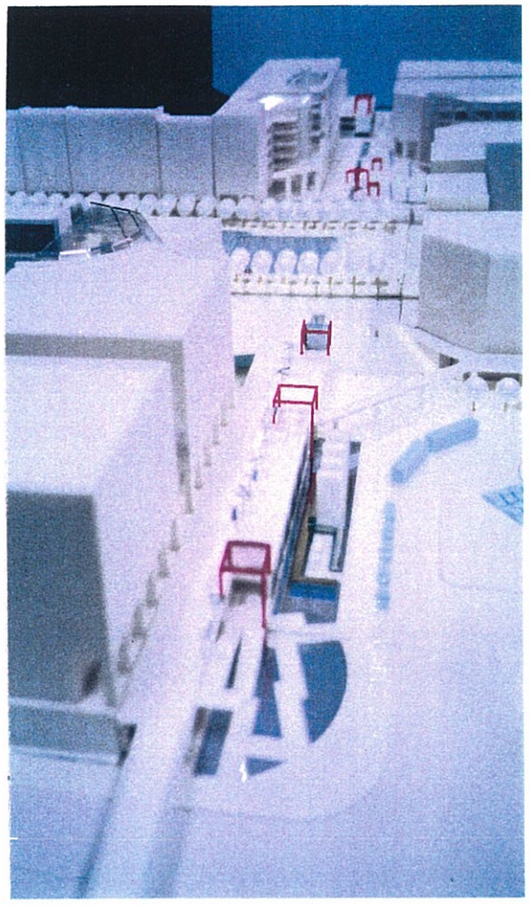


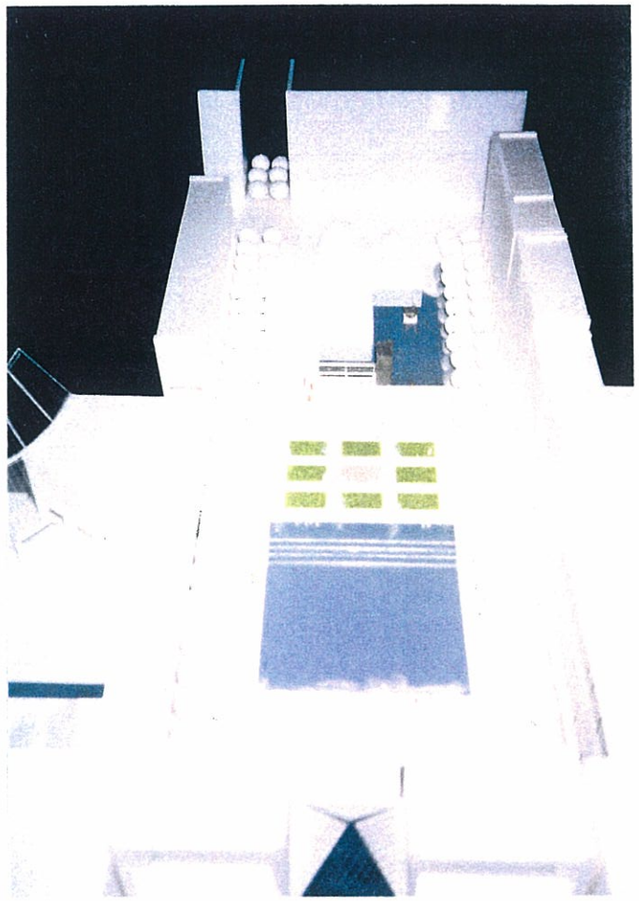


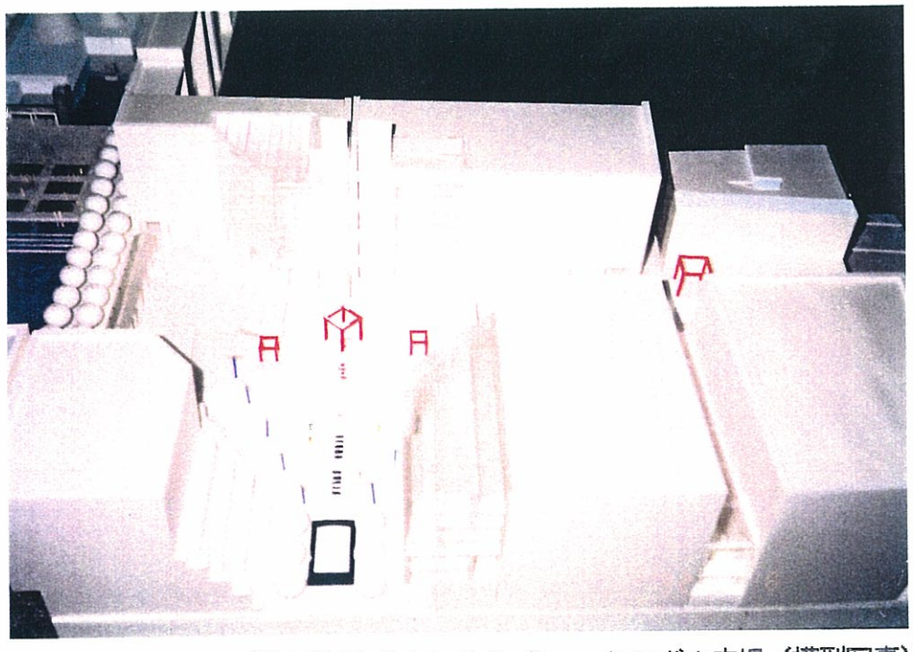
YAMATE PLANNING CABIN





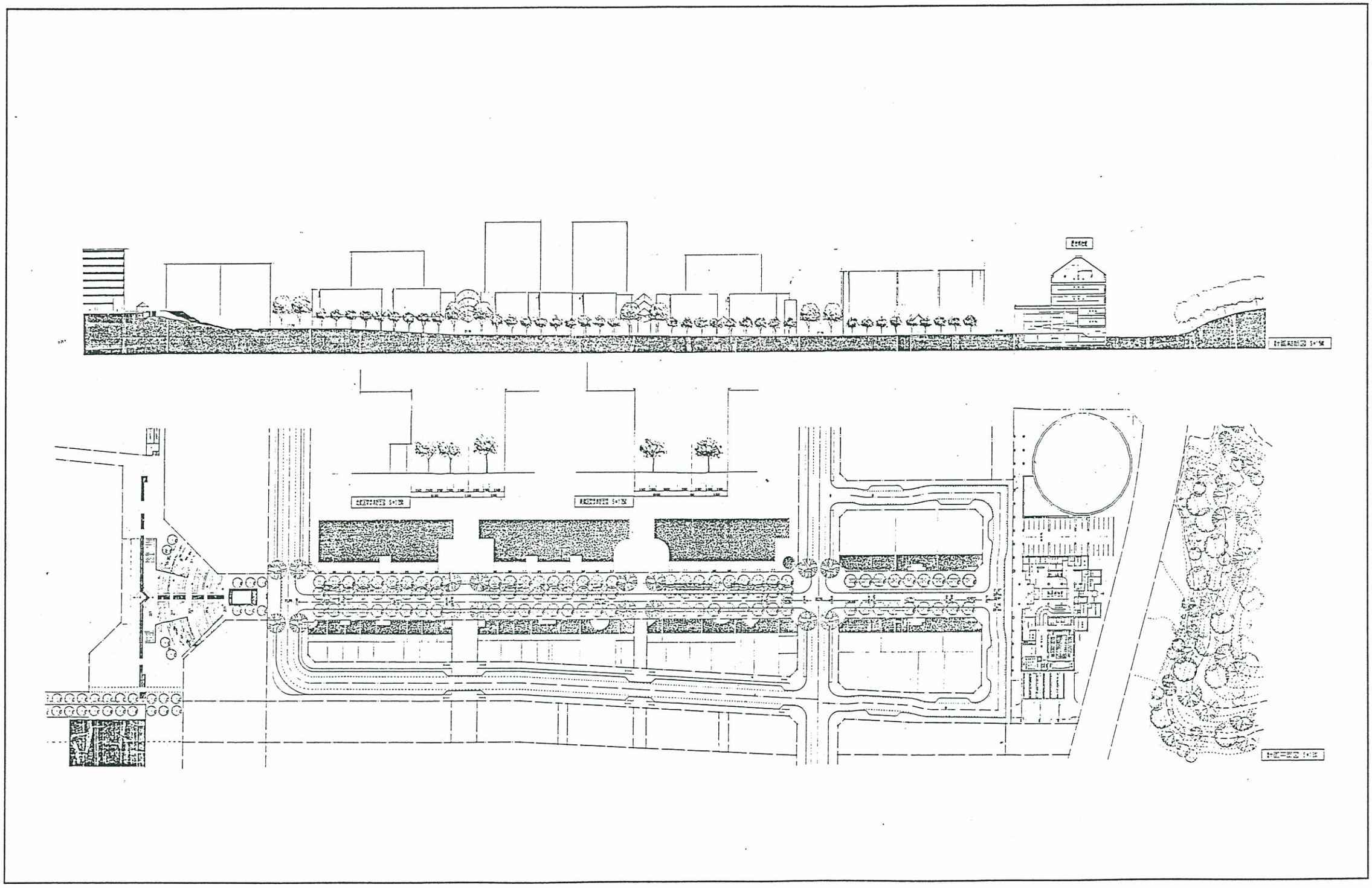






第１地区タウンセンター　シンボル広場（模型写真）

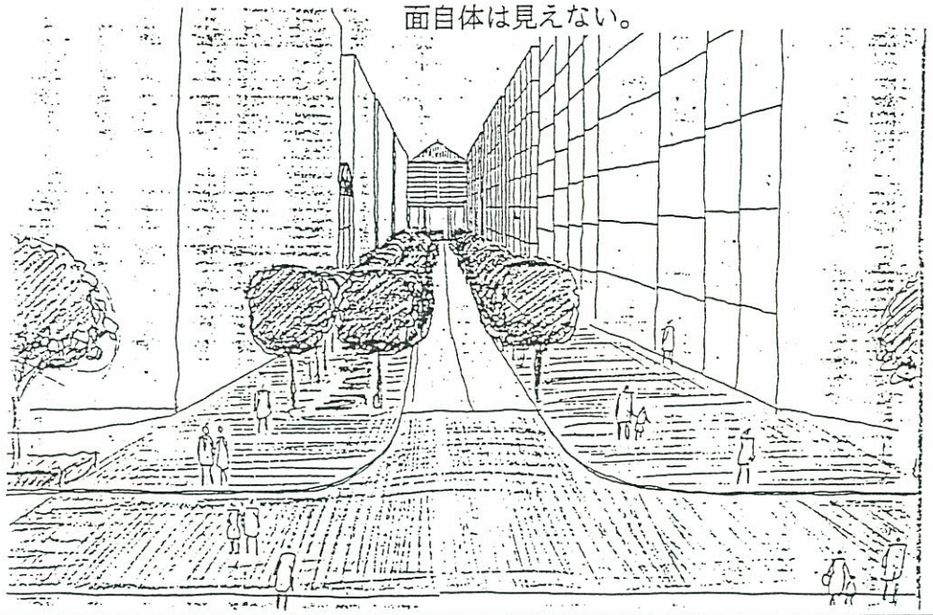
第１地区シンボル道路　全体計画図



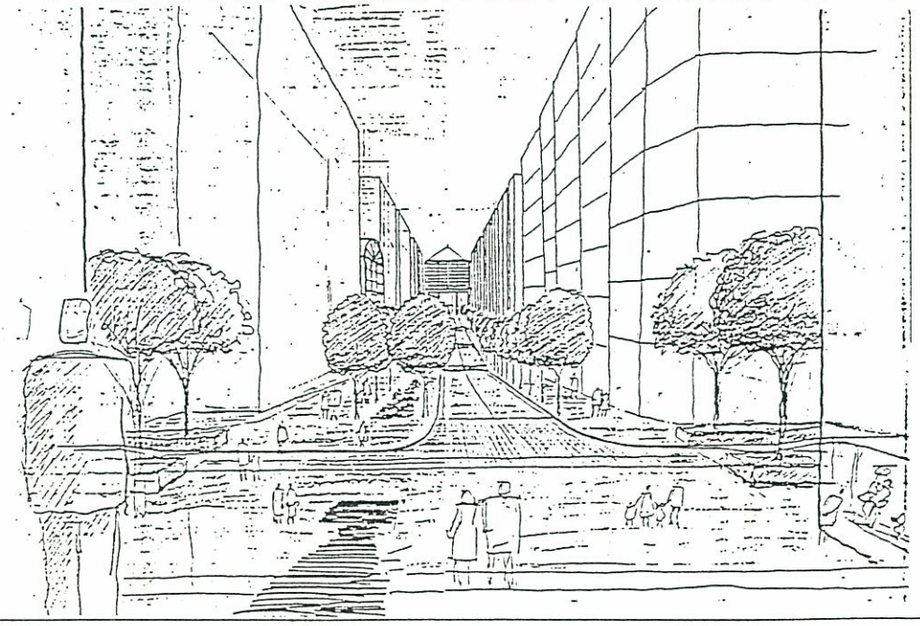
YAMATE PLANNING CABIN

第１地区シンボル道路　イ メ ー ジ図（歴史博物館へのビスタ）

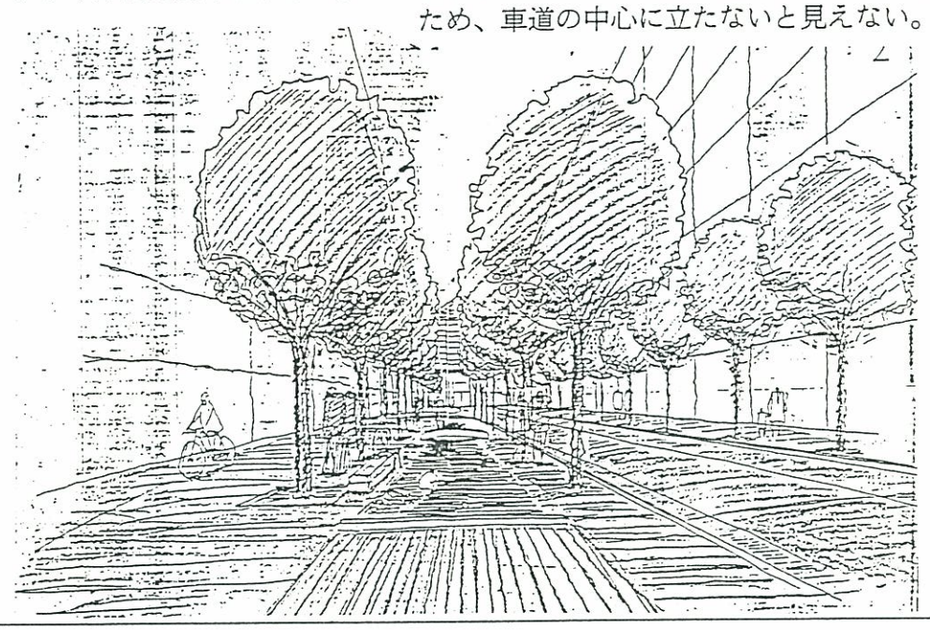
●図Ａ　シンボル広場レベルより見る。　• 歴史博物館は植栽の樹海の上に見え、道路面自体は見えない。



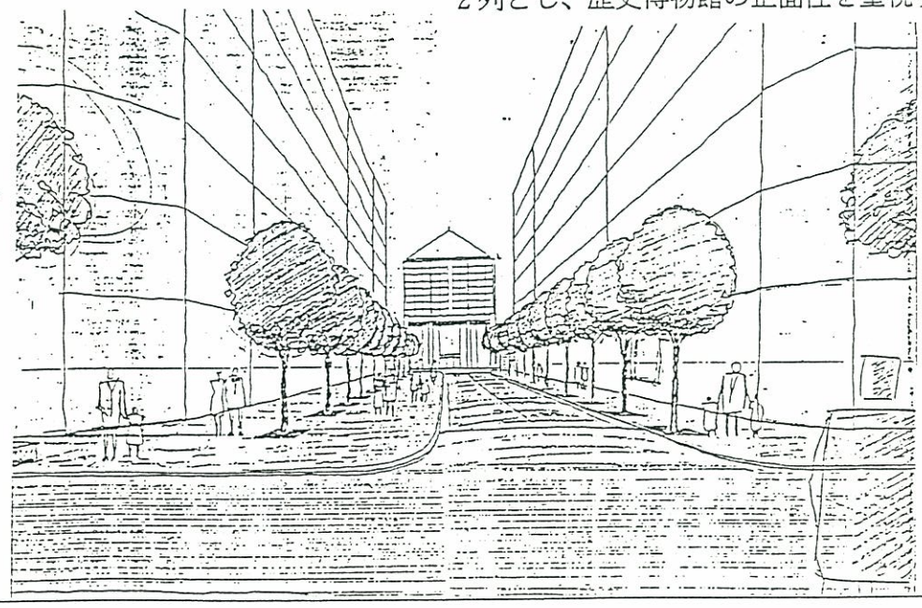
●図Ｂ　シンボル階段途中よりみる。図Ａと同じく樹海の上に歴史博物館が見える。



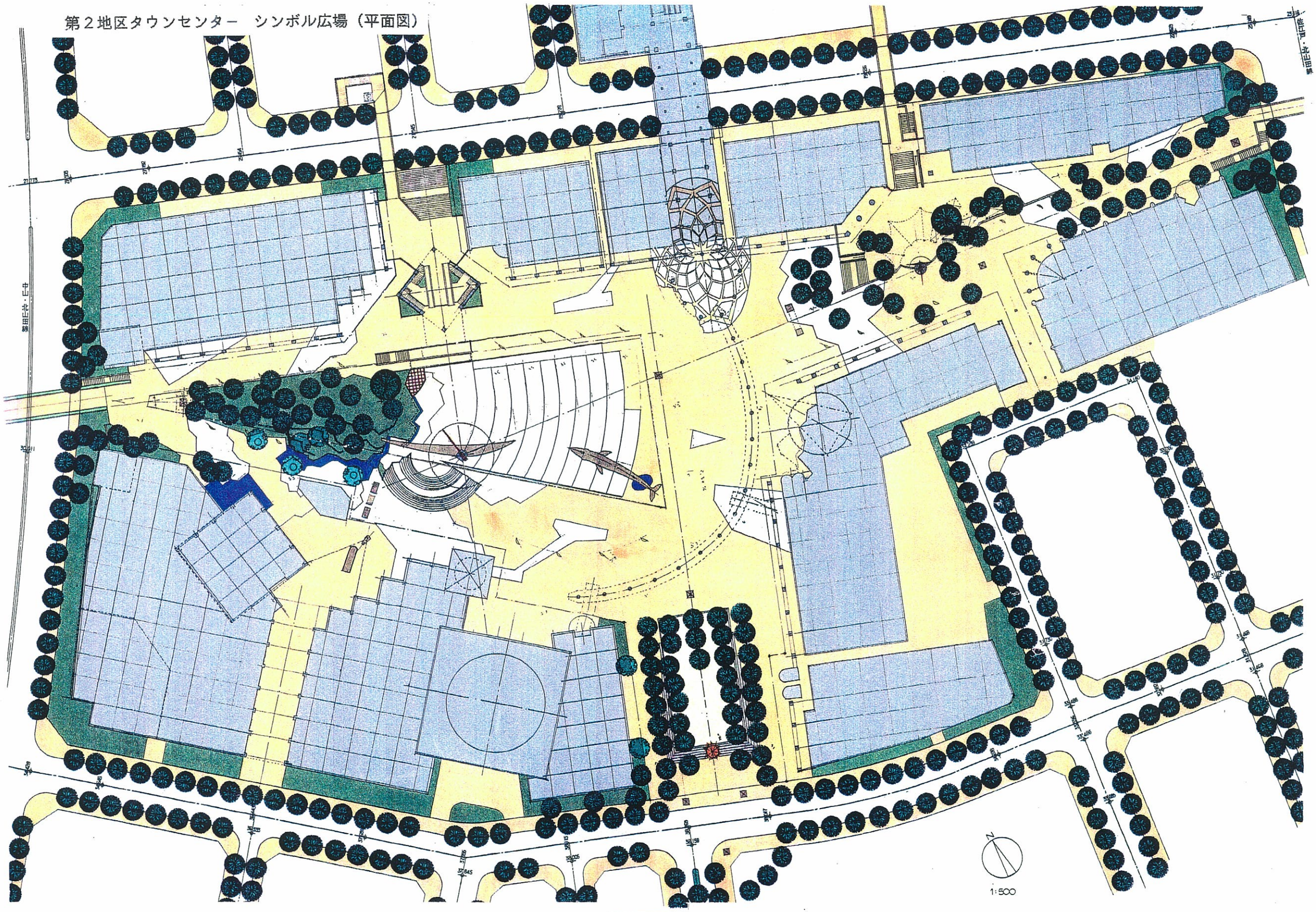
●図Ｃ　シンボル道路途中よりみる。　• シンボル道路の途中からは高木の枝葉が繁るため、車道の中心に立たないと見えない。



●図Ｄ　補助幹線道路交差点より見る。　• 南側の区間は歴史博物館に近いため植栽を２列とし、歴史博物館の正面性を重視する。

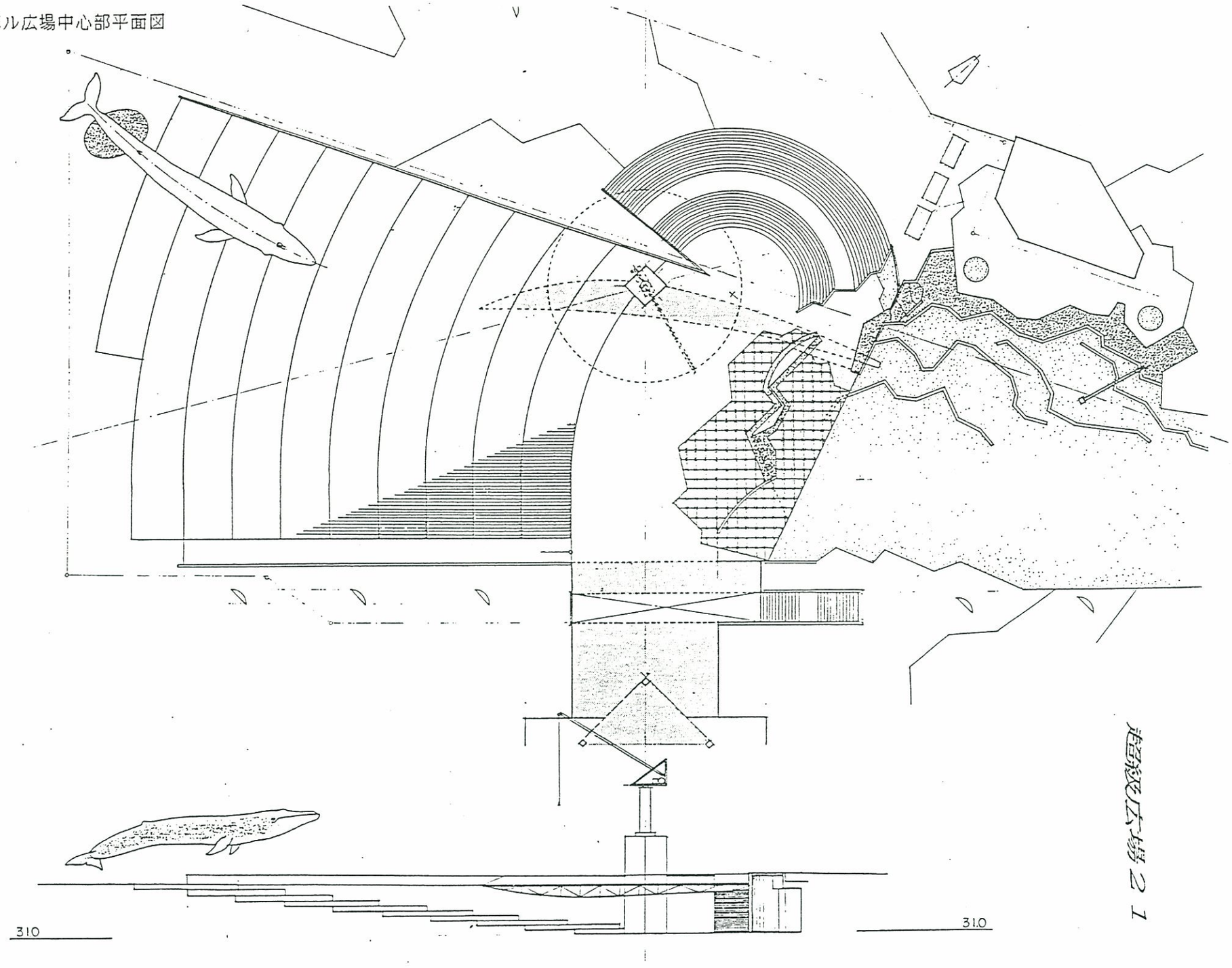


第２地区タウンセンター　シンボル広場（平面図）



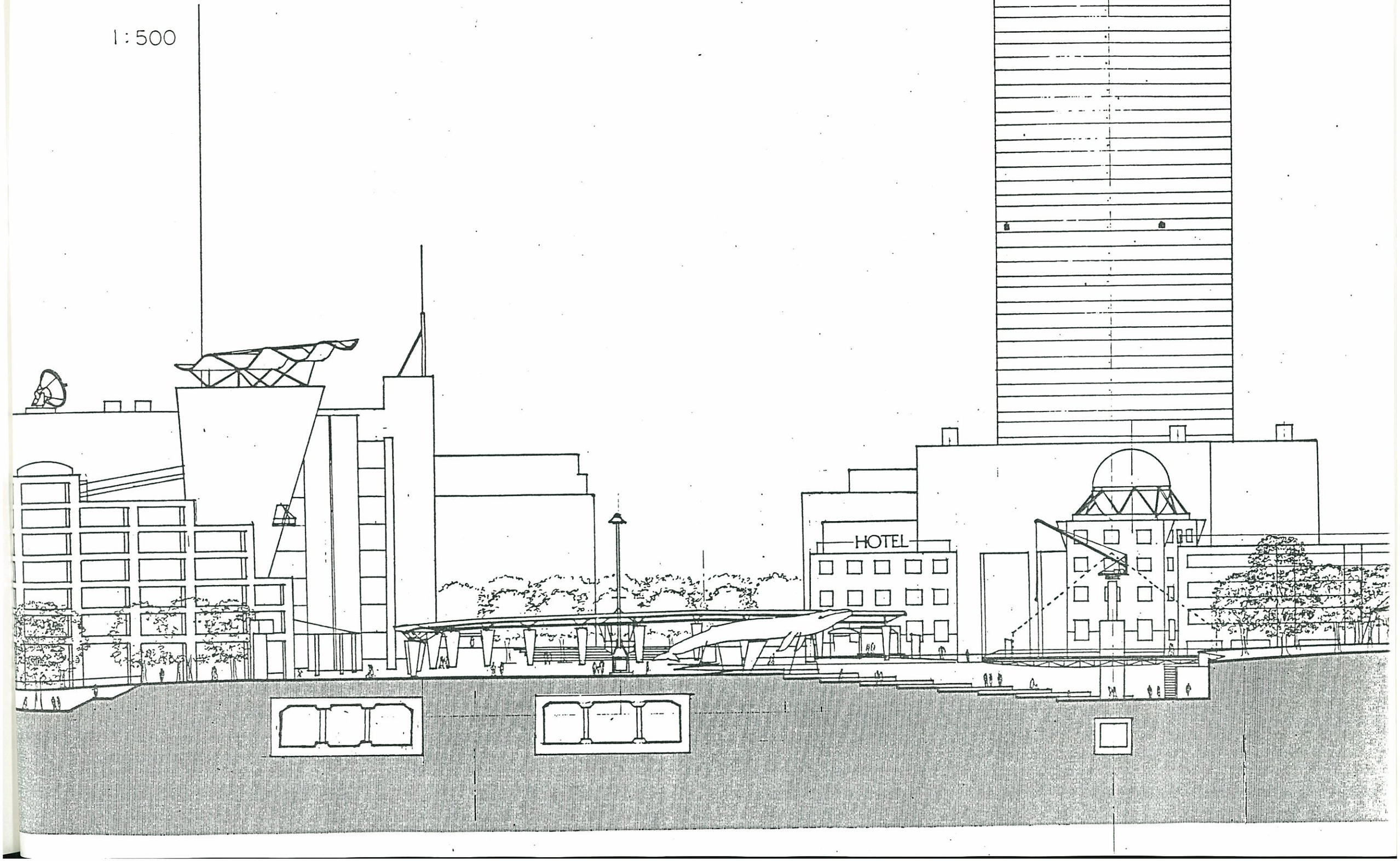
2－14　シンボル広場中心部平面図

1:500



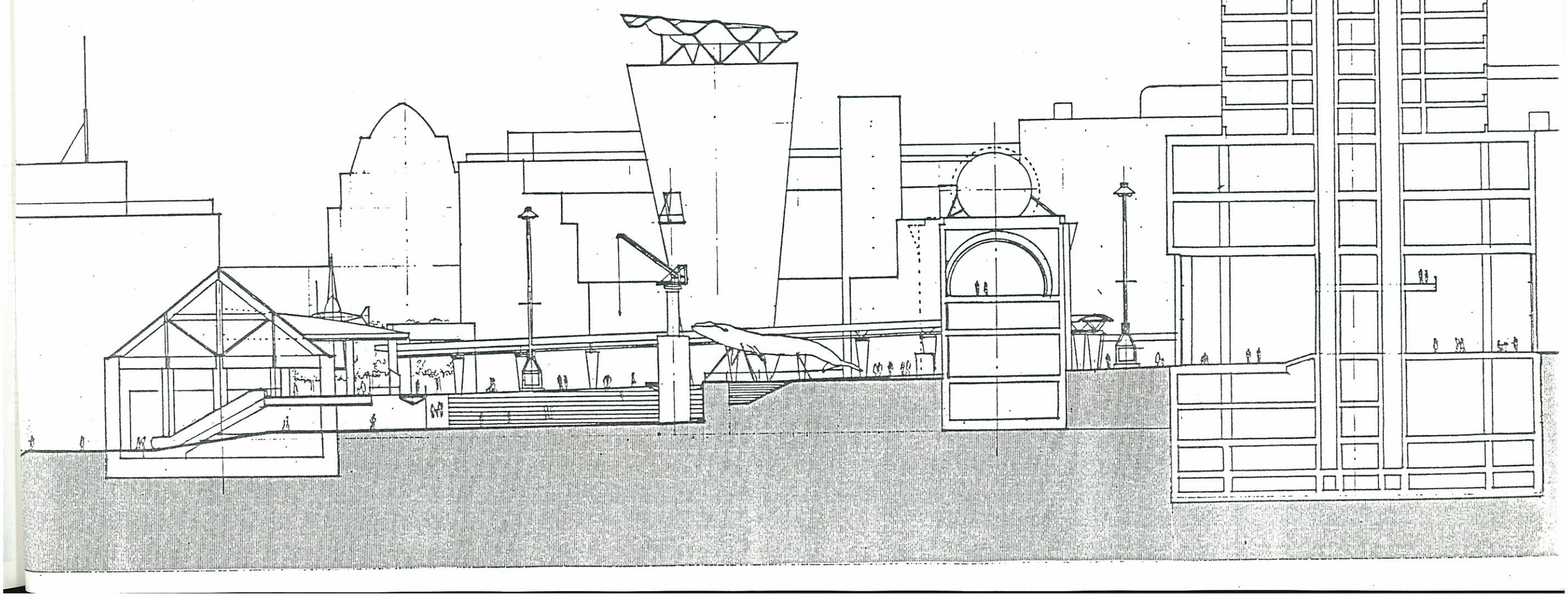
2－15　シンボル広場中心部断面（E－W）

1:500

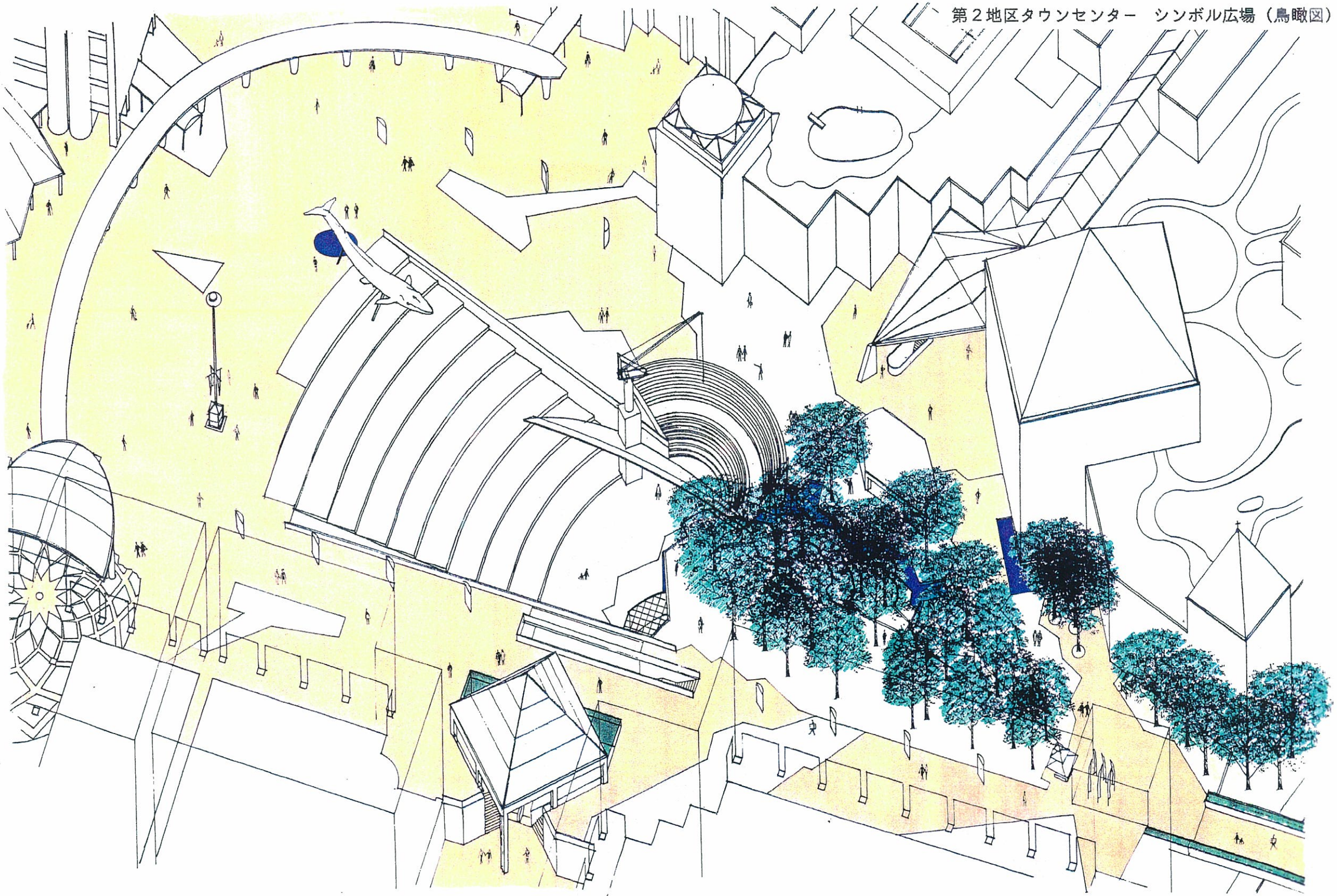


2－16　シンボル広場中心部断面（N－S）

1：500

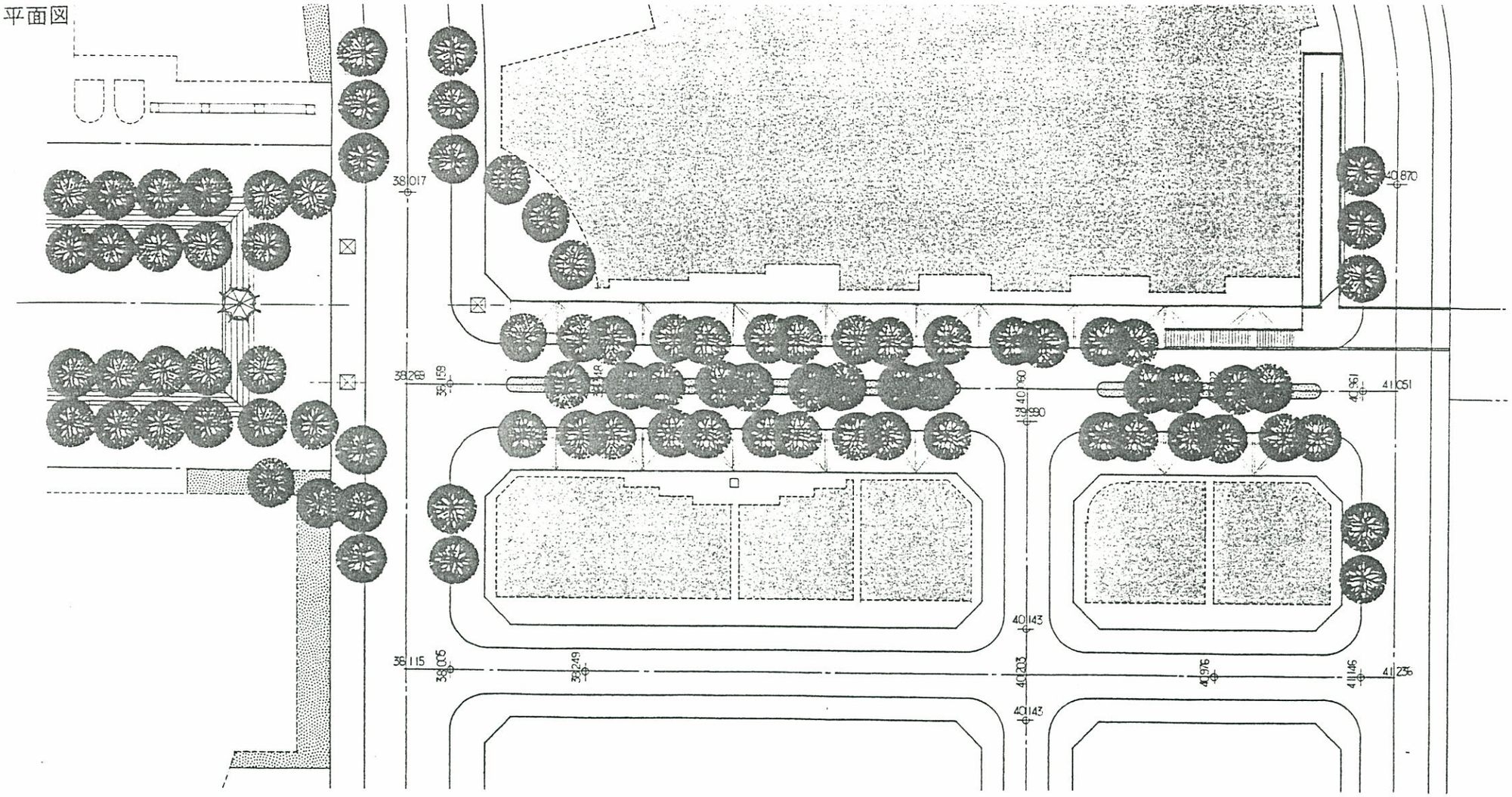


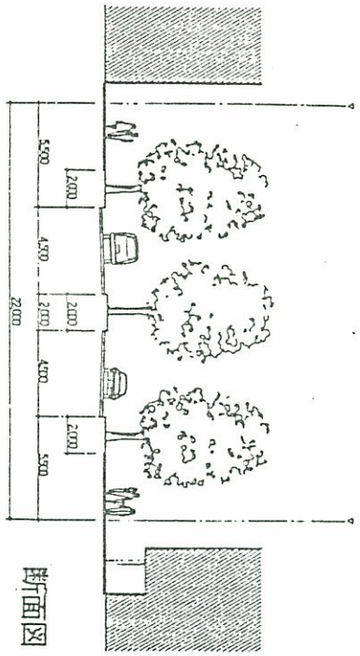
第２地区タウンセンター　シンボル広場（鳥瞰図）



第２地区タウンセンター　シンボル広場（模型写真）

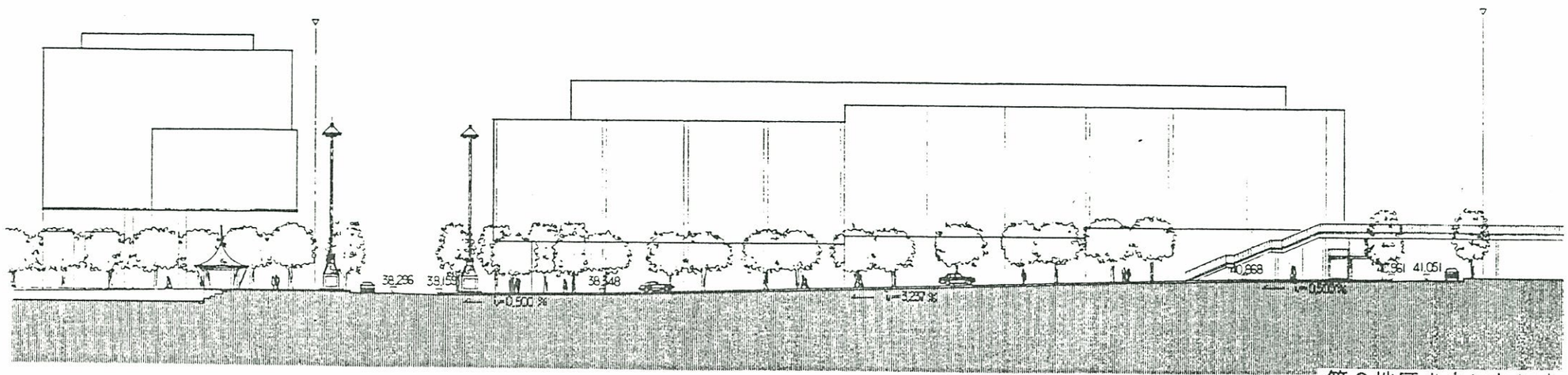
平面図


38.017
40.870
38.268
39.159
40.961
41.051
40.143
36.115
38.005
38.249
40.203
40.976
41.146
41.236
40.143


5500
2000
4500
2000
2000
4500
2000
5500
25000

断面図

立面図


38.296
39.159
38.348
40.868
40.961
41.051
i=0.500 %
i=3.257 %
i=0.500 %